アルインコ株式会社 電子事業部

東京営業所 〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目3番21号八重洲セントラルビル4階 ☎03-3278-5888
大阪営業所 〒530-0004 大阪市北区堂島浜1丁目2番6号新ダイビル9階 ☎06-4797-2135
福岡営業所 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1丁目3番6号第3博多偕成ビル7階 ☎092-473-8034

アフターサービスに関するお問い合わせは

お買い上げの販売店または、フリーダイアル 0120 0120-464-007

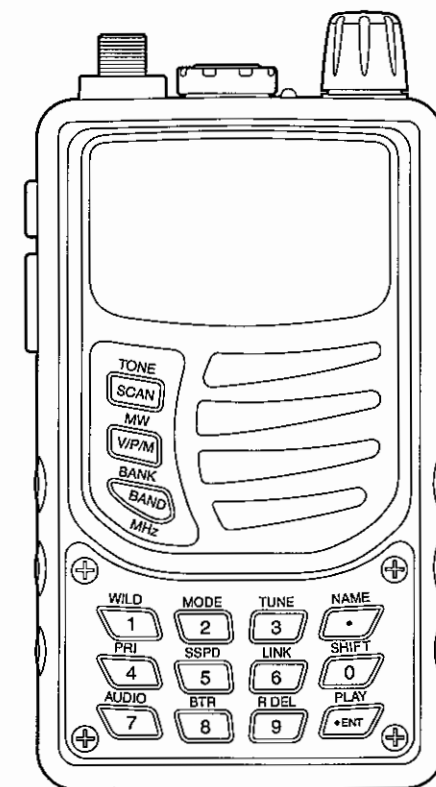
全国どこからでも無料で、サービス窓口につながります。受付時間／10:00~17:00月曜~金曜(祝祭日は除きます)
ホームページ http://www.alinco.co.jp/ 「電子事業」の「よくある質問集Q&A」もご参照ください。

PS0541

ALINCO

WIDE BAND COMMUNICATION RECEIVER

DJ-X8

取扱説明書

アルインコ ワイドバンドレシーバーをお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。本機の性能を十分に発揮させるために、まずこの取扱説明書を最後までお読みいただくようお願いいたします。
アフターサービスなどについても記載していますので、この取扱説明書は必ず保管しておいてください。

This product is for the use only in Japan. The manufacturer declines any responsibilities against the claim for the use abroad.

アルインコ株式会社

付属品の確認

DJ-X8には次の付属品が同梱されています。ご使用の前にご確認ください。

- □ 取扱説明書（本書）
- □ 保証書
- □ 周波数データリスト
- □ ニッケル水素バッテリーパックEBP-57N（1.2V-1800mAh×2）
- □ ACアダプター EDC-139（6.0V-0.85A）
- □ ホイップアンテナ（SMA）
- □ 充電スタンド(EDC-154)
- □ キーカバー
- □ ラバーシート
- □ ベルトクリップ
- □ ストラップ
- □ 付属ビス（ベルトクリップ用1本、キーカバー用スペア2本）

15. 定格

項目		定格
周波数範囲		0.100～1299.995MHz
電波の型式	AM	A3
	FM/WFM	F3
アンテナインピーダンス		50Ω不平衡 SMA端子
電源電圧	外部端子	DC5.4V～6.0V
消費電流	受信定格出力時	約140mA
	待受け時	約80mA
	バッテリーセーブ時	約26mA
周波数安定度		-7～+3ppm（-10℃～+60℃）
外形寸法		58W×99H×32Dmm（突起物除く）
重量		約220g（EBP-57N、アンテナ含む）
受信方式	NFM/AM	トリプルスーパーヘテロダイン
	WFM	ダブルスーパーヘテロダイン
中間周波数	1st	243.95MHz
	2nd	39.15MHz（NFM/AM）、10.7MHz（WFM）
	3rd	450kHz（NFM/AM）
受信感度（代表値）	FM（12dB SINAD）	・30～470MHz：-15dBμ（0.17μV）以下 ・470MHz以上：-7dBμ（0.45μV）以下
	WFM（12dB SINAD）	・76～470MHz：-6dBμ（0.5μV）以下 ・470MHz以上：-3dBμ（0.7μV）以下
	AM（10dB S/N）	・0.1～50MHz：-1dBμ（0.89μV）以下 ・50MHz以上：-6dBμ（0.5μV）以下
選択度	NFM/AM	-6dB/12kHz以上、-60dB/35kHz以下
	WFM	-6dB/130kHz以上、-60dB/300kHz以上
低周波出力		最大100mW以上（8Ω時）

15

た行

な行

は行

ま行

ら行

わ行

14. 索引

英数字

あ行

か行

さ行

13-4 CTCSSトーン周波数一覧

トーンスケルチ/逆トーンスケルチ機能をご利用の際に使用するCTCSSトーン周波数一覧です。
トーン周波数表示状態でダイヤルを回し、使用する周波数を次の39個の標準トーンから選択してください。

67.0	94.8	131.8	186.2
69.3	97.4	136.5	192.8
71.9	100.0	141.3	203.5
74.4	103.5	146.2	210.7
77.0	107.2	151.4	218.1
79.7	110.9	156.7	225.7
82.5	114.8	162.2	233.6
85.4	118.8	167.9	241.8
88.5	123.0	173.8	250.3
91.5	127.3	179.9	

（単位：Hz）

1. 機能と特徴

DJ-X8は長波(LF)から極超短波(UHF)まで広範囲の電波メディアを受信する多機能レシーバーです。
DJ-X8には主に次のような特徴があります。

1. 広範囲の受信周波数0.100 ~ 1299.995MHzに対応し、航空無線や業務通信などを受信できます。
2. AMラジオや短波放送を受信するバーアンテナを内蔵し、外部アンテナを外して受信できます。
3. イヤホンのコードをアンテナとして、外部アンテナなしで受信できます。
4. シンプルな操作ができるテンキーなしモード、より高度な操作のできるテンキー付きモードの選択が可能になりました。
5. イヤホンジャックにオプションのリモートコントローラー(以下リモコン)を接続し、そこにMP3プレイヤーなどを接続して普段は音楽、信号を受信したらDJ-X8へ自動で切り替わります。
6. 録音機能搭載(最長約17分)。残したい受信音声を残しておけます。
7. 盗聴器発見機能を2モード搭載。盗聴器が使われていそうな場合、表示と警告音で知らせてくれます。
8. 本体同士で設定や各種データをコピーできるクローン機能を搭載。またパソコンと接続して設定やデータを編集することもできます。
9. 業務通信で多用されている逆トーン対応のスケルチ機能を搭載。目的の音声だけを選択して聞くことができます。
10. 空線信号キャンセラー機能を搭載。鉄道無線やMCA業務無線で使用されている通話の無い時に聞こえる「ピー」や「ギャラギャラ」という音にスケルチをかけることができます。
11. 強い信号を探すときは速く、弱い信号を探すときはゆっくり確実に、スキャンスピードを変更でき、5段階から選べます。
12. よく使うセットモードの機能にジャンプできるワイルドキーを搭載。

13-2 オプション一覧

- ソフトケース(ESC-44)
- カールコードイヤホン(EME-26)
- シガーライターケーブル(EDH-33)
- 充電スタンドセット(EDC-154A)
- ニッケル水素バッテリーパック(EBP-57N：1.2V-1800mAh×2)
- リモートコントローラー(EDS-12)
- PC接続ケーブル(ERW-4C：シリアルポート接続)
- PC接続ケーブル(ERW-7：USB接続)

13-3 アフターサービスについて

■保証書

保証書は、所定事項(ご購入店名、ご購入日)への記入および記載内容をお確かめの上、大切に保管してください。ご購入時の記載、またはそれを証明するシート等別の書類が無い場合は無効となりますので充分ご注意ください。

■保証期間

お買い上げの日より1年間です。
正常な使用状態で上記の期間中に万一の故障が生じた場合は、お手数ですが製品に有効な保証書を添えて、お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。保証書の規定にしたがって修理いたします。

■保証期間が経過した場合

お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有償で修理いたします。
アフターサービスについてご不明な点がありましたら、お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。

■製造中止製品に対する保守年限に関して

製造中止製品に関しては、下記の一定期間保守部品を常備しております。
しかし、不測の事態により在庫が無くなる場合もあり、修理が行えないこともありますのでご了承願います。
※補修用部品の保証期間は、製造中止後5年です。
※弊社ホームページ(http://www.alinco.co.jp/ → 電子事業部 → Q&A → アフターサービス)にQ&Aを設けてカスタマーサービスに関する情報を掲載しておりますのでご参照ください。

13. 保守・参考

13-1 故障とお考えになる前に

次のような症状は故障ではありませんのでよくお確かめになってください。
処置をしても異常が続くときは、リセットをすることで症状が回復する場合があります。

症状	原因	処置
電源を入れても、ディスプレイに何も表示されない。	電池が接触不良をおこしている。	電池の電極の汚れなどを取り除く。
	電池が消耗している。	充電を行うか乾電池を新品に交換する。
	電源スイッチをはなすのが早すぎる。	電源スイッチを約1秒間押す。
スピーカーから音が出ない。 受信音がキャッチできない。	音量が低すぎる。	適切な音量に設定する。
	スケルチレベルが高すぎる。	適切なスケルチレベルに設定する。
	トーンスケルチが働いている。	トーンスケルチを解除する。
	ミュート機能が働いている。	ミュート機能を解除する。
周波数表示が異常になっている。	CPUが誤作動している。	外部電源および電池を外し、10秒以上待ってから取り付ける。それでも解決しないときはリセットする。
スキャンができない。	スケルチが開いている。	スケルチを雑音の消える位置に設定する。
周波数、メモリーチャンネルNo.が切り替わらない。	キーロックが設定されている。	キーロックの設定を解除する。
キーによる操作ができない。	キーロックが設定されている。	キーロックの設定を解除する。
受信中に表示が点滅したり消えたりする。	電池が消耗している。	充電を行うか乾電池を新品に交換する。

2. 安全上のご注意

2-1 安全上のご注意

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用の前にお読みください。

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損失を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示	表示の意味
⚠ 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

図記号	表示の意味
⚠	△記号は、注意(危険・警告含む)を促す内容があることを告げるものです。 図の中には具体的な注意内容が描かれています。
⃠	○記号は、行為の禁止であることを告げるものです。 図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。
●	●記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容(左図の場合はACアダプターをコンセントから抜いていただく強制内容)が描かれています。

本製品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因にて通信等の機会を失ったために生じた損害等の純粋経済損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

⚠ 警告

■使用環境・条件

自動車等の運転中に使用しないでください。交通事故の原因となります。運転者が使用するときは車を安全な場所に止めてからご使用ください。携帯型無線機を運転者が走行中に手に持って使用すると道路交通法違反で罰せられます。

電子機器(特に医療機器)の近くでは使用しないでください。電波障害により機器の故障・誤動作の原因となります。

内部から漏れた液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に傷害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、中継局周辺、病院内では絶対に使用しないでください(電源も入れないでください)。
運行の安全や無線局の運用、放送の受信に支障をきたしたり、医療機器が故障・誤動作する原因となります。

この製品を使用できるのは、日本国内のみです。海外では広帯域受信機の持ち込みや使用を禁止・制限している国や地域があります。

この製品を人命救助等の目的で使用して、万一、故障・誤動作等が原因で人命が失われることがあっても、製造元および販売元はその責任を負うものではありません。

この製品どうし、または他の無線機とともに至近距離で複数台使用しないでください。お互いの影響により故障・誤動作・不具合の原因となります。

この製品を何らかのシステムや電子機器の一部として組み込んで使用した場合、いかなる誤動作・不具合が生じても製造元および販売元はその責任を負うものではありません。

指定以外のオプションや他社のアクセサリー製品を接続しないでください。故障の原因となります。

■レシーバー本体の取扱いについて

イヤホンを使用する場合、あらかじめ音量を下げてください。聴力障害の原因になることがあります。

このレシーバーは調整済みです。分解・改造して使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

布や布団で覆ったりしないでください。熱がこもり、ケースが変形したり、火災の原因となります。直射日光を避けて風通しの良い状態でご使用ください。

水をかけたり、水が入ったりしないよう、またぬらさないようにご注意ください。火災・感電・故障の原因となります。

水などでぬれやすい場所(風呂場など)では使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

近くに小さな金属物や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。

テンキーモード	
受信モード	AT
短波チューニング	AUTO
スキャンスピード(V-SPD)	スピード3
スキャンスピード(M-SPD)	スピード3
受信音音質切り替え	LOW
録音音質切り替え	NORMAL

・工場出荷時にメモリーに書き込まれているデータは弊社で独自に編集しておりますが、周波数の割り当てや受信モードなどは変更になることがあります。弊社でも随時データの見直しを行っておりますが、データの信頼性は保証していません。ご購入時のメモリーチャンネルのメンテナンスは、必要に応じて市販の周波数帳などを参考にお客様によって行ってください。

誤ってメモリーデータを消去されたときは以下のどちらかの方法で復旧してください。
①弊社にお送り頂けば、運賃のみお客様のご負担で、無償にて再書き込みを致します。本書裏表紙のサービス窓口までお電話にてお問い合わせください。
②メモリーデータ編集ソフトを弊社ホームページ(http://www.alinco.co.jp/ → 電子事業 → ダウンロード)よりダウンロードし、オプションのERW-4CまたはERW-7でパソコンと本機を接続して、ソフトに同梱のオリジナルメモリーデータを書き込んでください。

・修復したメモリーデータはメンテナンスによって工場出荷時のメモリーデータと変わっている場合がありますのでご了承ください。
・弊社では、お客様がご自分で編集・登録されたデータの修復はできませんのでご了承ください。よくデータを編集される場合、バックアップを取る意味からもPC接続機能のご利用をお勧めします。

詳細は弊社サービス窓口、または大阪営業所にお問い合わせください。

12-2 リセットされる設定・データ

リセットデータの一覧(本機の初期状態の各パラメーターです)

周波数	VFOモード145.000MHz
音量レベル	20
スケルチレベル	3
プリセットモード	76.1MHz
スキャン	VFOスキャン
メモリースキャン	SINGLEスキャン
チャンネルステップ周波数	AUTO
空線信号キャンセラー機能	JR
CTCSSトーン周波数	88.5
セットモード	
アッテネーター(ATT)機能	OFF
イヤホンアンテナ/外部アンテナ切り替え	外部アンテナ
AMラジオバーアンテナの切り替え	ON
短波放送バーアンテナの切り替え	ON
LAMP動作の選択	5-SEC
スキャンタイプ切り替え	ビジースキャン
プライオリティチャンネルの選択	0チャンネル
プライオリティ待ち受け時間設定	5-SEC
プライオリティ停止時間設定	BUSY
バンド移動の可否設定	ROTATE(繰り返し)
APO機能	OFF
バッテリーセーブ機能	ON
ビープ音機能	ON
ベル機能	OFF
MONIキー動作の設定	PUSH
モニター/ミュート機能の設定	MONI
キーロック時の盗聴器発見機能の有効/無効設定	DISABL(無効)
盗聴器発見機能の感度設定	レベル3
盗聴器発見機能モードの切り替え	SILENT
充電機能のON / OFF	ON
充電時間の設定	12時間
セットモード復帰時間の設定	MANUAL
ライトプロテクト(メモリー保護)機能	ON
スキップスキャンの動作	SKIP
ワイルドキーへの割り当て	ATT
リモコン操作ボタンAへの割り当て	V/P/M
リモコン操作ボタンBへの割り当て	BAND
リモコン操作ボタンCへの割り当て	UP
リモコン操作ボタンDへの割り当て	DOWN

■チャージャーの取扱いについて

指定以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

チャージャーのACプラグのコードをタコ足配線しないでください。加熱・発火の原因となります。

ぬれた手でチャージャーのACアダプターに触れたり、抜き差ししないでください。感電の原因となります。

チャージャーのACアダプターを、ACコンセントに確実に差し込んでください。ACアダプターの刃に金具などが触れると、火災・感電・故障の原因となります。

チャージャーのACアダプターの刃に、ほこりが付着したまま使用しないでください。ショートや加熱により火災・感電・故障の原因となります。

■安定化電源の使用について

指定以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

安定化電源の電源プラグと他の製品の電源プラグをタコ足配線しないでください。

ぬれた手で安定化電源の電源プラグに触れたり、抜き差ししないでください。感電の原因となります。

安定化電源の電源プラグをACコンセントに確実に差し込んでください。電源プラグの刃に金属などが触れると、火災・感電・故障の原因となります。

DCケーブルを加工したり、ヒューズホルダーを取り除いて使用することは、絶対にしないでください。火災・感電・故障の原因となります。

■シガーライターケーブルの使用について

弊社指定のシガーライターケーブルをお使いください。指定以外のものを使うと火災・感電・故障の原因となります。

ぬれた手でシガーライターケーブルに触れないでください。感電の原因となります。

■異常時の処置について

以下の場合は、すぐ本体の電源をOFFにして、電池を取り外し、チャージャーをご使用の場合は、ACアダプターをACコンセントから抜いてください。異常な状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。修理はお買い上げの販売店、または当社サービス窓口にご連絡ください。お客様による修理は、危険ですから、絶対にお止めください。

- ■ 異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがするとき
- ■ 落としたり、ケースを破損したりしたとき
- ■ 内部に水や異物が入ったとき
- ■ ACアダプターのコードが傷んだとき(芯線の露出や断線など)

■保守・点検

本体やアクセサリーは、分解しないでください。けが·感電·故障の原因となります。内部の点検·修理は、お買い上げの販売店または当社サービス窓口にご依頼ください。

⚠ 注意

■使用環境・条件

テレビやラジオの近くで使用しないでください。電波障害を与えたり、受けたりすることがあります。

湿度の高い場所、ほこりの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

直射日光があたる場所や車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色したり、火災の原因となることがあります。

調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

■レシーバー本体の取扱いについて

アンテナを誤って目にささないようにしてください。

外部スピーカー端子にはオプションのスピーカー以外は接続しないでください。故障の原因となることがあります。

長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず本体の電源をOFFにし、電池をとりはずし、チャージャーをご使用の場合はACアダプターをACコンセントから抜いてください。

■チャージャーの取扱いについて

チャージャーのACアダプターを抜くときは、コードを引っ張らないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。必ずACアダプターを持って抜いてください。

チャージャーのACアダプターを熱器具に近づけないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

■保守・点検

お手入れの際は、安全のため必ず本体の電源をOFFにして、電池をとりはずし、チャージャーをご使用の場合は、ACアダプターをACコンセントから抜いてください。

汚れた場合は柔らかいきれいな布で乾拭きしてください。ベンジン・アルコール・シンナー・洗剤などを使うと外装や文字が変質する恐れがあります。

■外部電源使用時の注意

車のシガーソケットから電源を取る場合には、オプションのシガー DC/DCコンバーター（EDH-33）をご使用ください。

外部電源ケーブルの抜き差しは、必ず本体の電源をOFFにしてからおこなってください。

12. リセット機能

注意

・本機をリセットする場合は、必ずメモリー保護機能の設定を確認してください。「ライトプロテクト（メモリー保護）機能（☞P65）」の設定が「OFF」の状態でリセットを行うと、工場出荷時に登録されたデータ及び、お客様が登録されたデータのすべてが消去されます。
・消去されたデータは元に戻すことはできませんので十分にご注意ください。

リセットを行うと、セットモードなどの設定内容が工場出荷時の初期値に戻ります。

12-1 リセットの方法

1 ［FUNC］キーを押しながら［PWR］キーを押して電源を入れます。

2 ディスプレイにすべての表示が点灯したら［FUNC］キーと［PWR］キーをはなします。

初期設定のVFOモードになります。

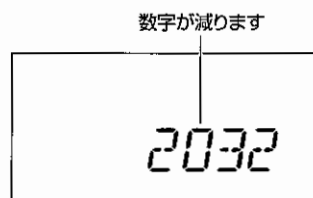
11-3 データを送る側の操作

この操作はPC接続には不要です。

1 電源を切ってステレオミニプラグコードをイヤホン端子に接続します。

2 [MONI] キーを押しながら [PWR] キーを押して電源を入れます。

ディスプレイに「CLONE」と表示されクローンモードになります。

3 「CLONE」と表示された状態でダイヤルを押すとディスプレイに右のように表示され、送り側のデータを受け側へ転送します。

4 転送が完了するとディスプレイに「FINISH」と表示されます。

ディスプレイに「FAIL」と表示された場合は再度、手順1からやり直してください。

5 電源を切ります。

電源を切らないとクローンモードは解除されません。

2-2 電波法上のご注意

この製品を使用するのに特別な資格や免許は必要ありませんが、電波法第59条は「何人も法律に別段の定めがある場合を除くほか、特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない。」とし、第109条で「無線局の取扱中に係る無線通信の秘密を漏らし、又は窃用した者は、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。」と罰則規定を設けています。さらに第109条の2で「暗号（秘話）通信を受信した者が、その暗号通信の秘密を漏らし又は窃用する目的で、その内容を復元（秘話解除）した時は、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。」と定めていますので、放送以外の無線通信を傍受される場合は電波法違反とならないよう十分にご注意ください。

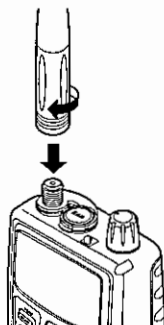
2-3 お願いとおことわり

・本機は厳重な管理の下に生産及び出荷されますが、万一ご不審な点やお気付きの点がありましたら、できるだけ早くお買い上げいただいた販売店または弊社営業所へご連絡ください。
・本機は広帯域受信機のため本体の内部発振(スプリアス)によって、受信できない場合や雑音を発生する周波数もありますが、故障ではありません。
・付属の周波数データリストに記載された周波数はあくまでも参考のもので、付近の電波状況などの諸条件により受信できない場合があります。
書店で販売されている周波数帳や受信ガイド、インターネット上にある情報などを参考に、必要に応じて修正してお使いください。
・この取扱説明書は予告なく変更することがあります。

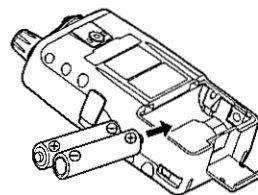
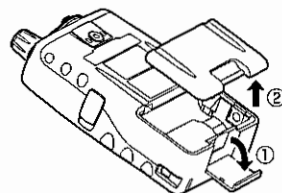
3. 付属品の使いかた

3-1 外部アンテナの取り付けかた／取り外しかた

1 アンテナの根元を持ち時計方向(右)にゆっくりと回します。
回転が止まったら確実に取り付けたことを確認してください。

2 外す時はアンテナを反時計方向(左)にゆっくりと回します。

3-2 電池の入れかた・ご注意

1 ロックを外してカバーを開けます。
外したカバーをなくさないよう注意してください。

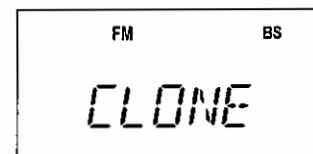
2 ケース内の＋・－の表示にしたがって、付属バッテリー2本を入れます。

注意
・＋・－の向きを間違わないよう注意してください。本体の故障・発熱・液漏れの原因になります。

11-2 データを受け取る側の操作

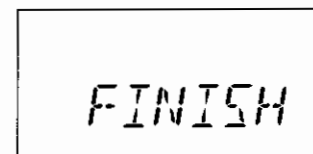
別のDJ-X8からデータをコピーする場合や、パソコンで編集したデータを受け取るときに、この操作を行います。

1 電源を切ってステレオミニプラグコードをイヤホン端子に接続します。
通常の3極ステレオミニプラグコードも使用できます。

2 [MONI] キーを押しながら[PWR]キーを押して電源を入れます。
ディスプレイに「CLONE」と表示されクローンモードになります。

FM　BS
CLONE

3 この状態で送り側のDJ-X8あるいはPCからのデータが送られてくるのを待ちます。

4 データの転送が完了すると「FINISH」と表示されるので表示を確認してから本体の電源を切ります。

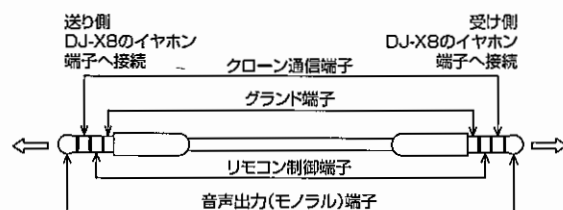
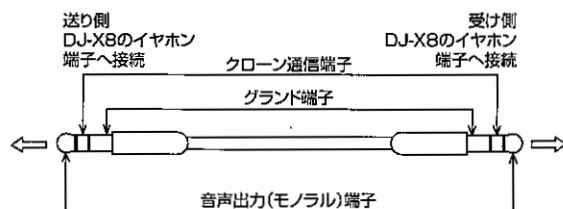
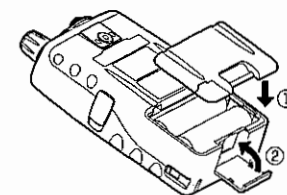
FINISH

注意
・ステレオミニプラグコードは、内部抵抗のない直結タイプを使用してください。
・クローン機能でデータ転送中に何かキーを押すとデータ転送が中断されます。転送を再開するときはダイヤルを押してください。
・データ転送中はケーブルを抜かないでください。ケーブルが抜けると送り側でディスプレイに「FAIL」と表示され、データ転送が中断されます。
・クローン機能を使用してデータ転送をすると、受け側のデータ内容はすべて送り側のデータ内容に置き替わってしまいます。受け側にデータがある場合は注意してください。

11. クローン／PC接続機能

クローン機能とは、1台のDJ-X8のデータを別のDJ-X8へコピーする機能です。2台のDJ-X8をコードで接続し、送り側に設定している情報（メモリーデータを含む）を受け側へコピーをします。
また、PC接続機能によりDJ-X8をパソコン(PC)に接続して、ソフトウエアでメモリーチャンネルや、セットモードの設定などを編集できます。

11-1 接続方法

この作業を行うときは、必ず本体の電源を切った状態で行ってください。
図のように、送り側のイヤホン端子と受け側のイヤホン端子を市販のφ3.5mmのステレオミニプラグコードで接続します。パソコンに接続するときは別売のPC接続ケーブル（ERW-4CまたはERW-7）のソケットをパソコンのシリアルポートまたはUSBポートに接続し、プラグをDJ-X8のイヤホン端子に接続します。

●4極ステレオミニプラグコード

●3極ステレオミニプラグコード

3 カバーを閉めてロックをかけます。
きちんと閉まったことを確認してください。

本機はニッケル水素電池の他に、アルカリ乾電池など市販されている単3形電池でもご使用いただけます。

●電池残量について

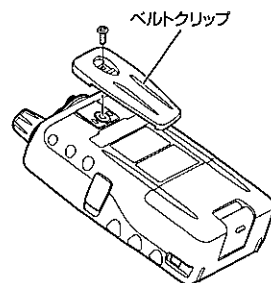
電池の残量が少なくなるとディスプレイに が点灯し、さらに少なくなると に変わります。
付属のニッケル水素電池をご使用のときは充電をしてください。アルカリ乾電池をご使用のときは新しい電池と交換してください。

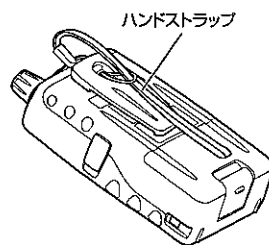
●ニッケル水素電池を使用するときの注意点

- 付属のニッケル水素電池は十分に充電されておりません。お買い上げ後に充電してからお使いください。
- 充電は0℃～40℃の温度範囲内で行ってください。
- バッテリーの改造や分解、火中や水中への投入は危険ですからしないでください。
- バッテリーの端子は絶対にショートさせないでください。機器が損傷したり、バッテリーの発熱による火傷の恐れがあります。
- 必要以上の長時間の充電(過充電)は避けてください。バッテリーの性能を低下させる恐れがあります。
- バッテリーの保存は、-20℃～+45℃の範囲で湿度が低く乾燥した場所を選んでください。それ以外の温度や極端に湿度の高い場所では、バッテリーの液漏れや、サビの原因になりますので避けてください。
- 所定の時間充電しても使用時間が著しく短い場合はバッテリーの寿命がつきたものと思われます。新しいものにお取り替えください。
- 使用済みのバッテリーは、環境保護のため、電池回収協力店へご持参ください。
- ニッケル水素電池はその性質上、6ヶ月程度充電せず放置すると劣化して充電できなくなることがあります。長期間ご使用にならないときは満充電にして、電池を本体から取り外して保存し、最低でも6ヶ月に一度は充電してください。
- ニッケル水素電池は消耗品ですので本体の保証の対象にはなりません。

3-3 ベルトクリップの取り付けかた

1. ベルトクリップを本体後面の溝に合わせます。
2. ネジを時計方向(右)に回します。
   回転が止まったら確実に取り付けたことを確認してください。
3. 外す時はネジを反時計方向(左)に回します。

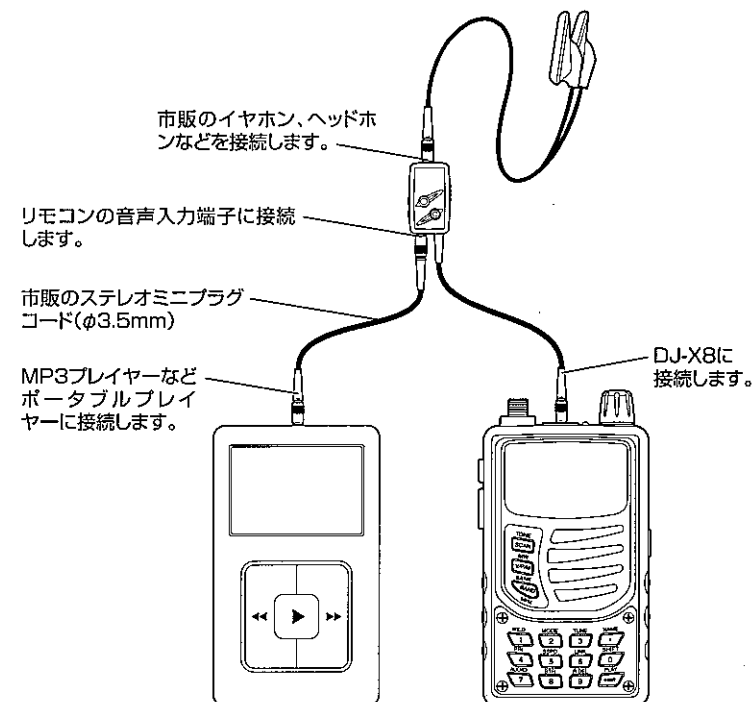
※使用しているとネジが緩むことがあります。ときどき点検してください。

3-4 ストラップの取り付けかた

1. ストラップをベルトクリップの穴に図のように取り付けます。

3-5 ACアダプターの使いかた

1. 本体右側のDCキャップを開けます。
2. 付属ACアダプターのプラグを本体DCジャックに差し込みます。
3. ACアダプターを家庭用電源コンセントへ接続します。

注意
・本体にACアダプターを接続しないときは、ほこりが内部に入るのを防ぐため、DCキャップを閉めてください。

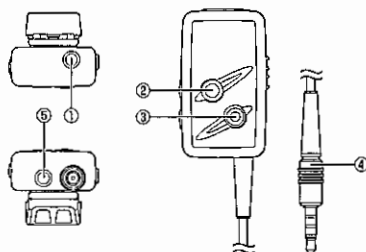
10-2 リモコンのつなぎかた

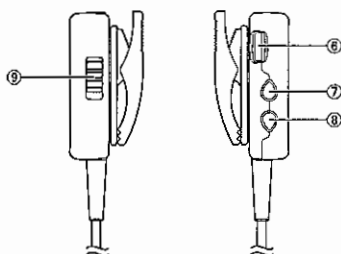
リモコンは以下のようにつなぎます。

10-3 リモコンの機能

・イヤホンやヘッドホンはモノラル・ステレオの両方とも使用できます。
・MP3プレイヤーなどポータブルプレイヤーを接続して通常は音楽、スケルチが開くとDJ-X8へ自動で切り替えをしてくれます。
・A・B・C・Dの各操作ボタンには自由に機能を割り当てられます。(☞P68)を参照してください。

10. オプションの使いかた

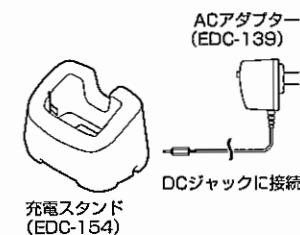
10-1 リモートコントローラーの使いかた

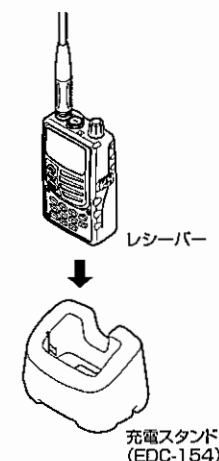
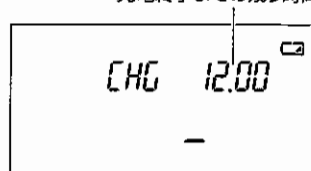
10-1-1 上面部、下面部、前面部

No.	名称	機能
①	イヤホン	イヤホン出力端子です。 ここにイヤホンなどを接続します。
②	操作ボタンA	V/P/Mキーです。
③	操作ボタンB	BANDキーです。
④	イヤホンコード	DJ-X8のイヤホンジャックへ接続します。
⑤	音声入力	ここへMP3プレイヤーなどポータブルプレイヤーを接続します。

10-1-2 側面部

No.	名称	機能
⑥	ボリューム	音量を調整します。音声入力⑤からの音量変更はできません。
⑦	操作ボタンC	UPキーです。
⑧	操作ボタンD	DOWNキーです。
⑨	ロックスイッチ	リモコンのキーロックが出来ます。

3-6 充電スタンドの使いかた・ご注意

3-6-1 充電スタンドの接続

1. 付属の充電スタンド後側のDCジャックにACアダプターのプラグを差し込みます。
2. ACアダプターを家庭用電源コンセントへ接続します。

3-6-2 充電の方法

1. 本機に付属のニッケル水素電池を入れます。
   電池の入れ方は「電池の入れ方・ご注意(☞P12)」をご参照ください。
2. 本機の電源を入れます。
3. セットモードの充電機能をONにします。
   初期値はONです。
4. 本機の電源を切ります。
5. 本機を充電スタンドにのせます。

6 充電が開始されRXランプが赤く点灯します。
ディスプレイの電池マークが点滅し充電を終了するまでの時間を表示します。

参考
- 過充電を防止するため、12時間(セットモードにて変更可)たつと自動的に充電を終了します。
- 受信しながらでも充電ができます。
- 本機はACアダプターから充電スタンドなしでも充電できます。
- 充電時間は使用する充電池に合わせて設定してください。セットモードの「充電時間の設定」で設定できます。

※本機に付属の電池の充電時間は、約10時間です。

注意
- 単3形乾電池装着時は絶対に充電しないでください。液漏れなどの原因になります。
- ACアダプター(EDC-139)を使用しないときは、必ず電源コンセントから外しておいてください。
- 充電しながら受信すると、まれにノイズが混じることがありますが、異常ではありません。
- ニッケル水素電池は継ぎ足し充電を繰り返すと電池が劣化し満充電できなくなります。必ず ▭ が表示されてから充電してください。電池の残量が気になるときはスペアの電池をお持ちください。

3-7 キーカバーの交換・ご注意

1 この作業は必ず電源を切ってから行ってください。

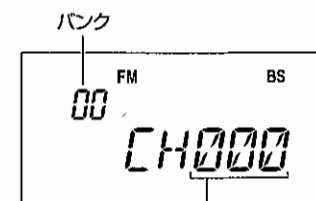
2 本体を正面に向け、図に示す4本のネジを外します。
外したネジをなくさないよう注意してください。(万一紛失したときのために予備のネジも同梱していますので別途保管してください)

9. チャンネル表示モード

メモリーモードで、周波数のかわりにバンク・チャンネル番号のみを表示し、その他の機能も制限したモードです。

1 あらかじめメモリーを登録しておきます。

2 メモリーモードにして電源を切ります。

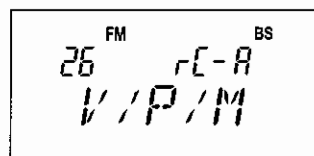
3 [MONI]キーと MW/V/P/M キーを押しながら電源を入れます。
ディスプレイに右のように表示されます。

解除する場合は、
同じ操作を行うと解除できます。

参考
- チャンネル表示モード時は、バンク・チャンネルの変更、音量調整、スケルチ調整、MONI/MUTE機能、メモリースキャン、キーロック以外の操作はできません。

8-2-26 リモコン操作ボタンへの機能割り当て

オプションのEPS-12を使うときだけのメニューです。
リモコンに下記の機能を自由に割り当てることができます。割り当てられるボタンはA～Dの4個あります。

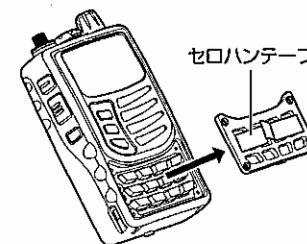
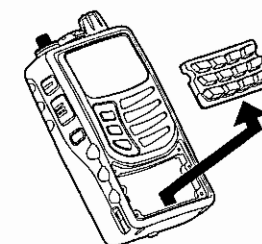
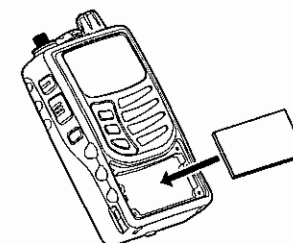
1 セットメニューの26～29がそれぞれリモコンの操作ボタンA～Dへの割り当てメニューです。操作はすべて同じです。

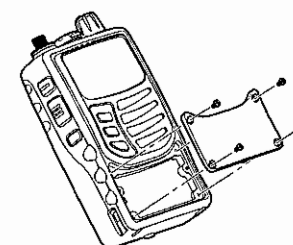
FM BS
26 rC-A
V/P/M

2 メニューを割り当てたい操作ボタンをセットメニュー26～29から選びます。「rC-A」～「rC-d」と表示されます。
右端のA、b、C、dがリモコンの操作ボタンを表します。

3 ダイヤルを回すとリモコンの操作ボタンに割り当てられる機能が表示されます。
割り当てられる機能は以下の中から選べます。

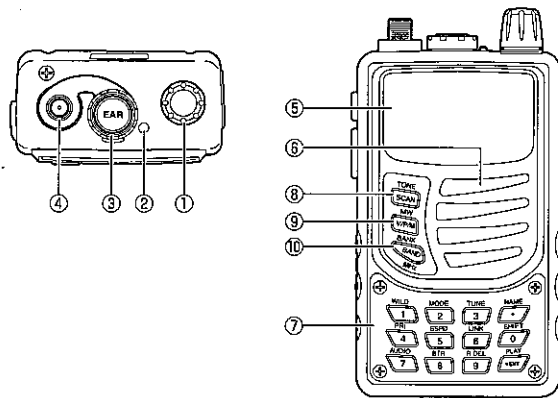
初期割り当て	メニュー名	機能
	ATT	アッテネーター機能
	ANTENA	イヤホンアンテナ、SMAアンテナの切り替え
	ABAR	AMラジオバーアンテナの切り替え
	SBAR	短波放送バーアンテナの切り替え
	BEEP	ビープ音機能の解除
	BELL	ベル機能
KEY C	UP	アップキー
KEY D	DOWN	ダウンキー
KEY A	V/P/M	VFO/プリセット/メモリーモードの切り替え
	AUX IN※	外部入力切り替え
	TONE	トーンスケルチ機能
	REVTON	逆トーンスケルチ機能
	TRAIN	空線信号キャンセラー機能
	MONI	MONIキー
KEY B	BAND	バンド切り替え
	PRIO	プライオリティ機能
	SPEED	スキャンスピード切り替え機能
	AFTONE	受信音音質切り替え
	PLAY	再生
	REC	録音

※スケルチが開いたときに自動でDJ-X8側に切り替えるか、音声をポータブルプレイヤー側に固定するかを選択する機能です。

3 テンキーカバーを外します。
外しにくいときは、セロハンテープなどを貼り付けて引き抜くと楽に外れます。

4 テンキーを外します。

5 ラバーシートを差し込みます。

6 キーカバーを差し込みます。

7 4本のネジを付けます。
強く締め付け過ぎると、カバーが壊れますのでご注意ください。

4. 各部の名称と操作

4-1 本体の名称と動作

4-1-1 上面部、前面部

No.	名称	機能
①	ダイヤル	ダイヤルを回すと周波数が変わります。一度ダイヤルを押すと音量の調整ができます。F 点灯中にダイヤルを押すとセットモードにはいります。
②	RXランプ	スケルチが開くと緑色に点灯します。充電中は赤く点灯します。
③	イヤホン端子	イヤホンやオプションのリモコンを接続します。
④	SMA アンテナコネクター	付属のホイップアンテナを取り付けます。
⑤	ディスプレイ	本機の状態を表示します。詳細はディスプレイの表示を参照してください。
⑥	スピーカー	薄型スピーカーが内蔵されています。
⑦	テンキー	周波数のダイレクト入力や、セットモードのダイレクトジャンプができます。キーカバーと取り替えることでシンプルな操作になります。
⑧	SCANキー	スキャンやトーンスケルチなどの操作をします。
⑨	V/P/Mキー	運用モードを切り替えます。
⑩	BANDキー	バンド、プリセット、メモリーのバンクを切り替えます。

2 ダイヤルを回すと WILD 1 キーに割り当てられる機能が表示されます。

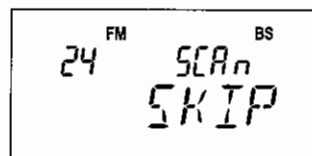
設定が可能なメニューは以下の中から選べます。

メニュー番号	メニュー名	機能
1	ATT	アッテネーター(ATT)機能
2	ANTENA	イヤホンアンテナ、外部アンテナ切り替え
3	ABAR	AMラジオ、バーアンテナの切り替え
4	SBAR	短波放送、バーアンテナの切り替え
5	LAMP	LAMP動作の選択
6	SCANTP	スキャンタイプの切り替え
7	PRIO	プライオリティチャンネルの選択
8	TIMESP	プライオリティ待ち受け時間設定
9	TIMEPR	プライオリティ停止時間設定
10	BAND	バンド移動の可否設定
11	APO	APO機能
12	BS	バッテリーセーブ機能
13	BEEP	ビープ音機能の解除
14	BELL	ベル機能
15	MONTYP	MONIキー動作の設定
16	MONFNC	モニター/ミュート機能の設定
17	LOCBUG	キーロック時の盗聴器発見機能の有効 / 無効 設定
18	BUGSNS	盗聴器発見機能の感度設定
19	BUGTYP	盗聴器発見機能モードの切り替え (SILENT/SOUND方式)
20	CHARGE	充電機能のON/OFF
21	CHGTIM	充電時間の設定
22	SETMOD	セットモード復帰時間の設定
23	PROTCT	ライトプロテクト(メモリー保護)機能
24	SKIP	スキップスキャンの動作
25	WILDKY	ワイルドキーへの機能割り当て
26	RMCN-A	リモコン操作ボタンAの機能割り当て
27	RMCN-B	リモコン操作ボタンBの機能割り当て
28	RMCN-C	リモコン操作ボタンCの機能割り当て
29	RMCN-D	リモコン操作ボタンDの機能割り当て

8-2-24 スキップスキャンの動作

サーチパスメモリーチャンネルに登録した周波数やスキップ指定したメモリーチャンネルを「スキップする/スキップしない」が選べます。
サーチパスメモリーチャンネルに登録した周波数は、VFOスキャン、プログラムスキャン、プリセットスキャン(テレビは除く)のときにスキップされ、スキップ指定したメモリーチャンネルはメモリースキャン時にスキップされます。
メモリースキャン時には、サーチパスメモリーチャンネルに登録した周波数はスキップされません。

1 セットメニュー 24の「SCAn」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

24 FM SCAn BS
SKIP

2 ダイヤルを回すと「SKIP」←→「NoSKIP」を設定できます。
「SKIP」‥‥‥スキップ指定したチャンネルを除いてスキャンします。
「NoSKIP」‥‥スキップ指定したチャンネルも含めてスキャンします。

8

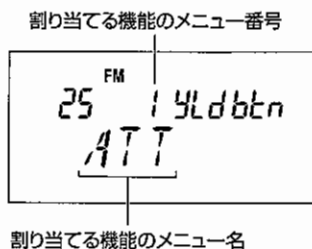
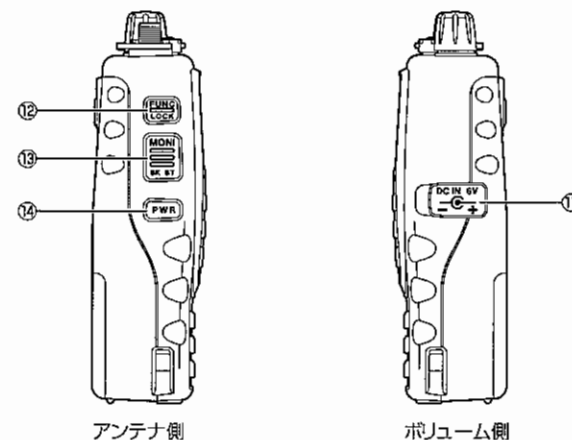
8-2-25 ワイルドキーへの機能割り当て

WILD 1 キーにセットモード内の任意のメニューを割り当てることができます。よく使うメニューを設定しておくと素早く設定の変更ができるようになります。

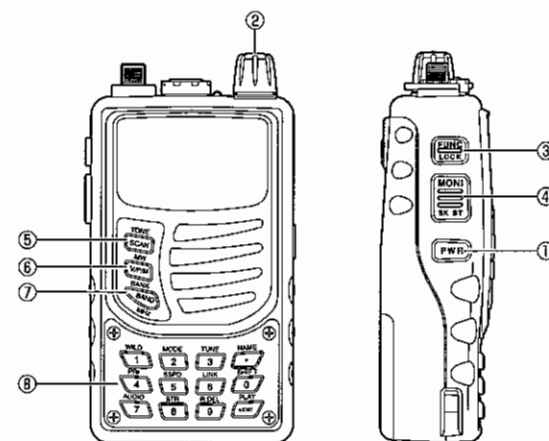
1 セットメニュー 25の「YLdbtn」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

4-1-2 側面部

アンテナ側

ボリューム側

No.	名称	機能
⑪	DCジャック	外部電源接続端子です。付属のACアダプターを接続します。
⑫	FUNCキー	このキーと組み合わせることで様々な機能を使用できます。長く押すとキーロックの設定ができます。
⑬	MONIキー	押すとスケルチが開き受信音が聞こえます。また、このキーを押したままダイヤルを回すとスケルチレベルの設定ができます。
⑭	PWRキー	長く押すと電源のON ／ OFFができます。

4

4-1-3 キー操作

●メインキー

No.	名称	機能	FUNCキーを押した後	キーを長く押す(約1秒)	キーを押しながらダイヤル操作
①	PWR	電源のON/OFF	——	電源のON/OFF	——
②	ダイヤル	周波数、音量、その他の設定	セットモード	盗聴器発見機能	——
③	FUNC	各種設定切り替え	——	キーロックのON/OFF	——
④	MONI	モニター機能	チャンネルステップ/メモリースキップ	——	スケルチレベルの調整
⑤	SCAN	スキャンの開始と停止	トーンスケルチ/逆トーンスケルチ/空線信号キャンセラー切り替え	——	スキャンモードの変更
⑥	V/P/M	VFO/プリセット/メモリーモードの切り替え	メモリーライト	——	——
⑦	BAND	バンドの切り替え	バンクの切り替え	周波数10MHz/1MHz切り替え	バンド/バンクの選択

●テンキー

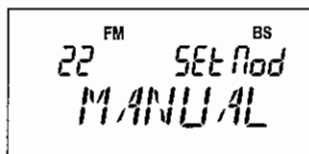
No.	名称	機能	FUNCキーを押した後
⑧	1	1を入力	ワイルドキー（初期値・ＡＴＴ）設定
	2	2を入力	受信モード設定
	3	3を入力	短波用バーアンテナ同調周波数調整
	4	4を入力	プライオリティの開始
	5	5を入力	スキャンスピード設定
	6	6を入力	グループ設定の確認
	7	7を入力	受信音質設定
	8	8を入力	録音音質設定
	9	9を入力	録音データ消去
	0	0を入力	周波数シフト設定
	・	小数点を入力	メモリーネーム設定
	• ENT	録音/決定	再生

参考：操作方法は「テンキー装着時の便利な機能・操作」をお読みください。

8-2-22 セットモード復帰時間の設定

何も操作をしないときに、セットモードを自動的に終了するかどうかを設定する機能です。手動と自動(5～25秒)を選択できます。

1 セットメニュー22の「SetMod」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

FM BS
22 SEt Mod
MANUAL

2 ダイヤルを回すと「MANUAL」←→「5-SEC」～「25-SEC」が表示されます。

MANUAL（初期値）	［FUNC］キーを押すまでセットモードで待機します。
「5-SEC」～「25-SEC」	キー操作を設定時間行わないと自動的にセットモードを終了します。変更した設定は保存されます。

8-2-23 ライトプロテクト（メモリー保護）機能

メモリーモードに登録されているチャンネルを編集（上書き、削去）できるようにします。

1 セットメニュー23の「ProtCt」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

FM BS
23 ProtCt
ON

2 ダイヤルを回すと「ON」←→「OFF」を設定できます。

ON	プロテクトを有効にします。登録されたメモリーの編集はできません。
OFF	プロテクトを無効にします。メモリーの編集ができるようになります。

メモリーチャンネルの消去は「メモリーチャンネルの消去(☞P32)」をお読みください。

注意

・この設定をOFF状態でリセットをするとすべてのメモリーデータが消去されてしまいます。この設定をOFFにしてメモリー編集を終えたらONに戻すことを忘れないようにしてください。

8-2-20 充電機能のON ／ OFF

1 セットメニュー20の「CHArGE」を選択します。
ディスプレイに次のように表示されます。

```
FM          BS
20     CHArGE
ON
```

2 ダイヤルを回すと「ON」←→「OFF」を設定できます。

注意

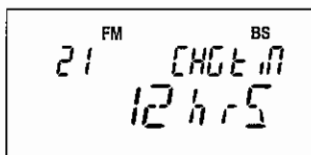
大変重要な設定です。必ずよくお読みください。

- 乾電池を使うときは必ずOFFにしてください。ONになっていると乾電池を充電することになり大変危険です。
- 過充電を防止するため、一定時間経つと充電が自動的にOFFになります。充電時間の設定はセットモードの「充電時間の設定」で設定できます。
- 使用中にバッテリーの発熱などの異常があればすぐに充電を中止してください。

8-2-21 充電時間の設定

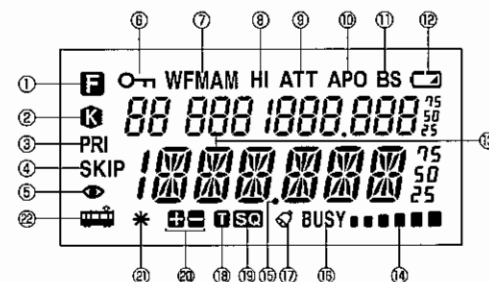
付属の電池と市販の単3形充電池を使用する場合、電池の容量に合わせて充電時間を設定する機能です。
1～24時間の範囲で設定できます。

1 セットメニュー21の「CHGtiM」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

```
FM          BS
21     CHGtiM
       12hrS
```

2 ダイヤルを回して、充電時間を設定します。

参考

- 付属のニッケル水素バッテリーパックEBP-57N（1.2V-1800mAh）の場合約10時間で満充電になります。
付属バッテリーより大きい容量のものを充電する場合は、充電時間が長くなります。
代表的な市販ニッケル水素充電池の容量と目安になる充電時間
1800mA：12時間
2200mA：14時間
- 充電完了後に電源の入り・切りを行うと再び充電を行います。

4-2 ディスプレイの表示

No.	名称	機能
①	F	FUNCキーを押すと点灯します。
②	K	ノーマル・ロック状態の時に点灯します。
③	PRI	プライオリティ機能がONのときに点灯します。
④	SKIP	スキップ設定時に点灯します。
⑤	👁	盗聴器発見機能ONのときに点灯します。
⑥	O┳	クイック・ロック状態の時に点灯します。
⑦	WFMAM	電波型式（AM、FM、WFM）を表示します。
⑧	HI	音質がHIに設定されているときに点灯します。
⑨	ATT	アッテネーター動作時に点灯します。
⑩	APO	オートパワーオフ機能がONのときに点灯します。
⑪	BS	バッテリーセーブ機能がONのときに点灯します。
⑫	▭	電池残量が少なくなると点灯します。
⑬	8 ⊠	受信周波数や各設定内容などを表示します。
⑭	■■■■■■■	受信信号の強さを表示します。
⑮	•	スキャン時に点滅します。
⑯	BUSY	信号を受信すると点灯します。
⑰	🔔	ベル機能設定時に点灯します。
⑱	T	トーンスケルチ/逆トーンスケルチ機能の動作時に点灯/点滅します。
⑲	SQ	トーンの検出時に点灯します。
⑳	＋−	シフト方向を表示します。
㉑	✳	（本機では使用していません）
㉒	🚃	空線信号キャンセラー機能動作時に点灯します。

5. 基本操作

5-1 電源を入れる

1 [PWR]キーを長く押すと電源が入ります。
電源を切るときも同じ操作をします。

5

5-2 音量レベルを調整する

音量調整範囲は0～30までの31段階です。
初期値は20です。

1 ダイヤルを1回押します。
音量レベルが表示されます。
ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤルを回して音量レベルを聞きやすいように調整します。
音量は時計回りで増加、反時計回りで減少します。

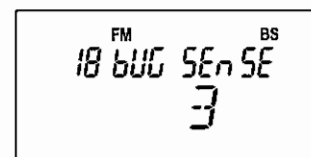
注意
・イヤホンを使用するときは音量にご注意ください。小さいレベルで実際に音量を確かめながら大きくしてください。

参考
音が出ないときは
・スケルチが閉じているときや、ミュート機能が動作しているときは音量を大きくしても受信音は聞こえません。
詳細は、次の「スケルチを調整する(☞P23)」と「ミュート機能(☞P24)」をお読みください。

8-2-18 盗聴器発見機能の感度設定

SILENTモード時の盗聴器発見機能の探知感度を設定します。

1 セットメニュー 18の「bUG SEnSE」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤルを回すと1～5までの範囲で感度を設定できます。
初期値は3です。
盗聴器発見機能の感度は「1」高い←→「5」低いの順で設定できます。

注意
・感度を高くすると、誤動作を起こしやすくなります。低くすると誤動作は減りますが、盗聴器の近くでないと反応が鈍くなります。

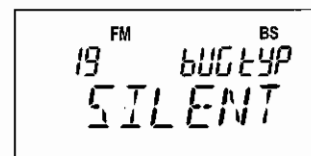
8-2-19 盗聴器発見機能モードの切り替え

盗聴器発見機能の探知方式を設定します。

1 セットメニュー 19の「bUG tyP」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

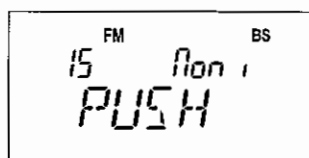
FM　BS
19 bUG tyP
SILENT

2 ダイヤルを回して「SILENT」←→「SOUND」を選択します。
盗聴器発見機能の詳細は「盗聴器発見機能(☞P40)」をご覧ください。

8

8-2-15 MONIキー動作の設定

［MONI］キーを押したときの動作を設定できます。

1 セットメニュー 15の「Moni」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤルを回して「PUSH」←→「HOLD」を設定できます。

PUSH	［MONI］キーを押しているときだけモニター機能、またはミュート機能が動作します。
HOLD	［MONI］キーを押し、もう一度押すまでモニター機能、またはミュート機能が動作します。

8-2-16 モニター／ミュート機能の設定

［MONI］キーを押したときの動作をモニター、またはミュートに設定できます。

1 セットメニュー 16の「Moni」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

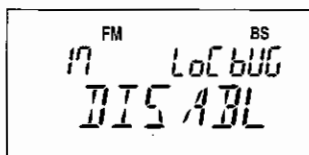
2 ダイヤルを回すと「MONI」←→「MUTE」を設定できます。

MONI	［MONI］キーを押すと一時的にスケルチを開けます。
MUTE	［MONI］キーを押すと一時的に音を消します。

8-2-17 キーロック時の盗聴器発見機能の有効／無効設定

キーロック時に盗聴器発見機能を有効にするか無効にするかを設定します。

1 セットメニュー 17の「LoCbUG」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤルを回すと「DISABL」←→「ENABLE」を設定できます。

DISABL	無効にします。
ENABLE	有効にします。

5-3 スケルチを調整する

●スケルチとは

一定レベル以上の信号を受信したときだけ、スピーカーから音声を出す機能です。受信信号がないときにスピーカーから聞こえる耳障りな「ザー」というノイズを聞こえなくするもので信号の待ち受けがしやすくなります。スケルチのレベルを上げるとノイズの少ない強い信号は受信できますが、弱い信号は受信できなくなります。
信号を受信して音を出すことを「スケルチが開く」と呼び、逆の場合を「スケルチが閉じる」と呼びます。どの程度の強さの信号を受信したときにスケルチが開くかは、スケルチの設定レベルで決まります。このレベルは受信場所や受信周波数などの条件によって若干変化するので調整できるようになっています。

スケルチレベルの調整範囲は0～9までの10段階です。
スケルチレベルの初期値は3です。

5-3-1 操作方法

1 ［MONI］キーを押しながらダイヤルを回します。

ディスプレイに右のように表示されます。

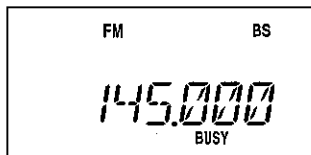
スケルチレベルは時計回りで高く、反時計回りで低くなります。

- ・スケルチを常に開いた状態にしたいときはスケルチレベルを0にします。
- ・スケルチが開いた状態ではスキャンが働きません。スキャンを動作させるときはノイズ音が聞こえなくなるまでスケルチレベルを調整してください。

5-3-2 モニター機能

スケルチを強制的に開く機能です。受信信号が弱いときや音が途切れるときに、設定されているスケルチレベルに関わらず一時的にスケルチを開きます。この機能は「モニター／ミュート機能の設定(☞P62)」をモニター機能として設定した場合に有効になります。

モニター機能にはPUSHとHOLDの2種類があります。いずれも［MONI］キーを押すことでディスプレイに「BUSY」が点灯し、スケルチが開きます。

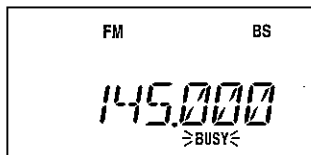
5

・PUSHの設定では［MONI］キーを押している間だけスケルチが開きます。［MONI］キーをはなすと再び設定されたスケルチレベルに戻ります。
・HOLDの設定では一度［MONI］キーを押すとスケルチが開いたままの状態を保ちます。再度［MONI］キーを押すとモニター機能は解除され、設定されたスケルチレベルに戻ります。
・PUSHとHOLDの切り替え方法はセットモードの「MONIキー動作の設定(☞P62)」をお読みください。

参考

・モニター機能を使用するとトーンスケルチや空線信号キャンセラーも一時的に解除されます。

5-3-3 ミュート機能

消音機能です。信号を受信してスケルチが開いても音声を出しません。この機能は「モニター／ミュート機能の設定(☞P62)」をミュート機能として設定した場合に有効になります。

ミュート機能にもPUSHとHOLDの2種類があります。いずれも［MONI］キーを押すことでディスプレイの「BUSY」が点滅し、ミュート機能が動作します。

参考

・モニター機能とミュート機能はいずれか一方しか選択できません。

8-2-13 ビープ音機能の解除

キー操作を行ったときになる音をビープ音と呼びます。この音をならないようにすることができます。

1 セットメニュー 13の「bEEP」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤルを回すと「ON」←→「OFF」を設定できます。
OFFにするとビープ音はなりません。

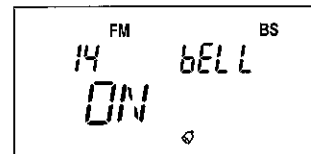
注意

・この設定をOFFにするとAPOのタイムアウト時のアラームやベル機能のベル音もなりません。

8-2-14 ベル機能

ベル(BELL)は信号を受信したときに音で知らせる機能です。

1 セットメニュー 14の「bELL」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

8

2 ダイヤルを回すと「OFF」←→「ON」を設定できます。
ONにするとディスプレイに 🔔 が点灯します。信号を受信すると 🔔 が点滅しベル音がなります。次にキー操作を行うまで 🔔 は点滅しているので、例えば不在のときに信号を受信したことがわかる「着信確認」としても使えます。

8-2-11 APO機能

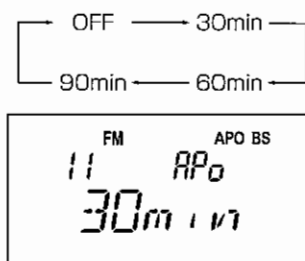
APOは自動電源OFF（Auto Power Off）の略です。設定した時間、無操作状態が続くと、ビープ音がなり自動的に電源が切れます。

1 セットメニュー 11の「APo」を選択します。

2 ダイヤルを回すと表示が変わり、APO機能のOFFと時間設定ができます。30分、60分、90分とOFFが選択できます。

ディスプレイに右のように表示されます。

電源が切れたとき再び電源を入れるには、もう一度電源スイッチを押してください。

参考

・信号を受信しているだけではAPO時間は延長されませんが、キー操作を行うと、カウントがリセットされ、改めてタイマーが動作します。

8-2-12 バッテリーセーブ機能

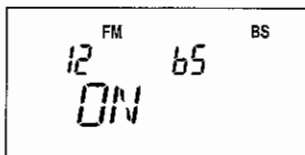
本機の電源を短い間隔で自動的にON/OFFさせることで、待機中の消費電力を抑え、バッテリーを長持ちさせる機能です。

1 セットメニュー 12の「bS」を選択します。

ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤルを回すと「ON」←→「OFF」を設定できます。

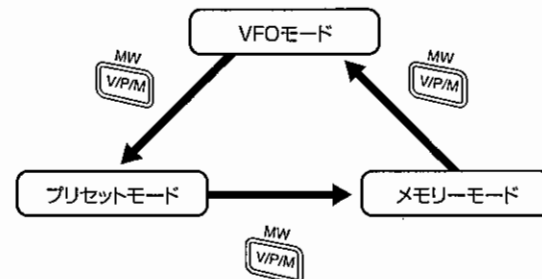
ONにするとディスプレイに「BS」が点灯します。

- 工場出荷時はONに設定されています。通常はOFFにする必要はありませんが、アマチュア無線で行われているパケット通信や航空無線のデータ通信ACARSのようなデータ通信を受信するときはOFFにしてください。
- 信号を受信したり、スキャンを行っているあいだはバッテリーセーブ機能は働きません。
- 休止状態のときも、ディスプレイの表示は点灯しています。（ON/OFFに応じた表示の変化はありません。）

5-4 運用モード

DJ-X8にはVFOモード、プリセットモード、メモリーモードの3つの運用モードがあります。

VFOモード	可変周波数発振器（Variable Frequency Oscillator）の略で、ダイヤルを回して周波数を選ぶモードです。
プリセットモード	AMラジオ、FMラジオ、TV1～62チャンネルの音声周波数があらかじめセットされています。
メモリーモード	あらかじめ登録しておいた周波数を呼び出して運用するモードです。メモリーの登録を行うときは「メモリーモード（☞P29）」をお読みください。

・運用モードの切り替え

キーを押すごとに、図に示す順にモードが切り替わります。

メモリーモードに何も登録されていないときは、メモリーモードに切り替わりません。

5-5 周波数の設定

5-5-1 VFOモードでの運用

工場出荷時から最初に電源を入れたときに表示されるモードです。ダイヤルを回して受信周波数を選ぶことができます。

●バンドの切り替え

- キーを押すと次の14バンドから順に選択できます。
- キーを押しながらダイヤルを回してもバンドの選択ができます。

5-5-2 チャンネルステップ周波数の設定

チャンネルステップとは総務省によって無線通信やラジオ、テレビ放送などに割り当てられた周波数と周波数の間隔を言います。
チャンネルステップの初期設定単位は変更できます。
設定変更できるチャンネルステップの単位は次の通りです。
初期設定は「Auto」です。通常は「Auto」設定を変更する必要はありませんが、自動で合わない周波数を受信する際に設定してください。

●バンドの切り替え

BANK/BAND キーを押すと、次の14のバンドから順に選択できます。

初期値	周波数範囲	受信モード
.100	(100～530kHz) ※1	AM
.531	(531～1620kHz) ※2	AM
2.000	(1.625～49.995MkHz)	AM
51.000	(50.000～75.995MkHz)	FM
76.000	(76.000～107.995MkHz)	WFM
118.000	(108.000～141.995MkHz)	AM
145.000	(142.000～169.995MkHz)	FM
175.750	(170.000～221.995MkHz)	WFM
270.000	(222.000～335.995MkHz)	AM
380.000	(336.000～429.995MkHz)	FM
433.000	(430.000～469.995MkHz)	FM
475.750	(470.000～769.995MkHz)	WFM
806.000	(770.000～959.995MkHz)	WFM
1295.000	(960.000～1299.995MkHz)	FM

●選択できるチャンネルステップ

Auto、5kHz、6.25kHz、8.33kHz、10kHz、12.5kHz、15kHz、20kHz、25kHz、30kHz、50kHz、100kHz、125kHz、150kHz、200kHz、500kHz、1MHz
※1:チャンネルステップ1kHzのみで変更できません。
※2:チャンネルステップ9kHzのみで変更できません。

1 BANK/BAND キーを押してチャンネルステップを変更したいバンドに合わせます。

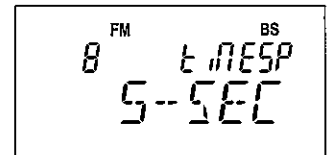
2 [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

5

8-2-8 プライオリティ待ち受け時間設定

プライオリティ機能でのメインチャンネルの待ち受け時間を選択します。

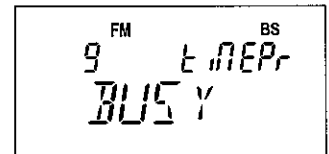
1 セットメニュー 8の「tiMESP」を選択します。

2 ダイヤルを回すと待ち受け時間が設定できます。
ディスプレイに右のように表示されます。

3 ダイヤルを回すと5 ～ 60秒の範囲で設定できます。

8-2-9 プライオリティ停止時間設定

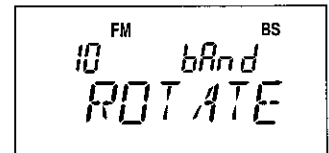
プライオリティ機能でプライオリティチャンネルを受信したときに停止する時間を選択します。

1 セットメニュー 9の「tiMEPr」を選択します。

2 ダイヤルを回すと停止時間が設定できます。
ディスプレイに右のように表示されます。

3 この設定もビジーモードと1 ～ 25秒のタイマーモードが選べます。
前ページの「スキャンタイプ切り替え」の表を参考に同様の設定をしてください。

8-2-10 バンド移動の可否設定

VFOモードで、スキャンやダイヤルの操作中にバンドの上端、下端に周波数がきたとき、そのバンド内の逆の端に戻るか、次のバンドに移動するかを選択します。

1 セットメニュー 10の「bAnd」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤルを回すと「ROTATE」←→「ACROSS」を設定できます。

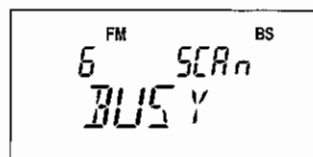
ROTATE	バンド内に留まります。
ACROSS	次のバンドに移動します。

8

8-2-6 スキャンタイプ切り替え

スキャンを行うときのスキャンの再開条件を選びます。

1 セットメニュー 6の「SCAn」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

FM BS
6 SCAn
BUSY

2 ダイヤルを回すと「BUSY」⟷「1-SEC」~「25-SEC」が表示されます。
「BUSY」はビジースキャンモード、「1-SEC」~「25-SEC」はタイマースキャンモードです。下の表を参考にお好みの設定にします。

ビジースキャンモード	スキャン停止後、信号がなくなればスキャンを再開します。
タイマースキャンモード	スキャン停止後、信号があっても設定時間が経過するとスキャンを再開します。 タイマーの時間は「1-SEC」(1秒)~「25-SEC」(25秒)の間で設定が可能です。

8-2-7 プライオリティチャンネルの選択

プライオリティチャンネルを選びます。あらかじめメモリーモード(☞P29)でプライオリティチャンネルを登録しているときに有効になる設定です。

1 セットメニュー7の「Prio」を選択します。

2 ダイヤルを回してプライオリティチャンネルを選びます。
ディスプレイに右のように表示されます。

3 [MONI] キーを押すとディスプレイに「AUTO」が表示されます。

4 再度、[MONI] キーを押すと「AUTO」から各チャンネルステップに設定が変更されます。

5 ダイヤルを回すとチャンネルステップを選択できます。再度[MONI] キーを押すと「AUTO」に戻ります。

6 [FUNC] キーを押すと設定が完了し、ディスプレイは周波数表示画面に戻ります。
いずれかのバンドでチャンネルステップに「AUTO」以外のステップを選択すると、全バンドで「AUTO」は解除されます。また最後に選択したバンドごとのステップが記憶されています。
いずれかのバンドで「AUTO」に戻すと、全てのバンドで「AUTO」になり、本機に登録されたチャンネルステップへ自動的に切り替わります。

5-5-3 10MHz・1MHz UP/DOWN操作

1 VFOモードから [BAND] キーを長く押すと、10MHzの周波数表示が点滅し、ダイヤルを回すと10MHz単位で周波数が増減します。

10MHz UP/DOWN表示

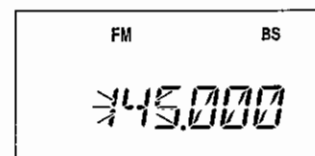
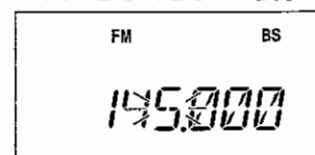
FM BS
145.000

2 再度、[BAND] キーを押すと1MHzの周波数表示が点滅し、ダイヤルを回すと1MHz単位で周波数が増減します。

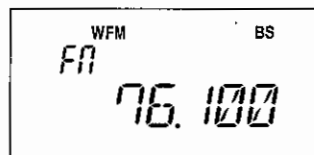
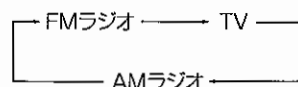
1MHz UP/DOWN表示

FM BS
145.000

3 [FUNC]キーまたは [BAND] キーを押すと通常の周波数表示画面に戻ります。

参考

・10MHz・1MHz UP/DOWN操作は、各バンドの範囲に関係なく増減します。

5-5-4 プリセットモードでの運用

1 VFOモードから MW/VFO/M キーを1回押すと、ディスプレイに受信モードが表示されプリセットモードになります。

2 BANK/BAND キーで聴きたいバンドを選択します。
BANK/BAND キーを押すごとに右のように切り替わります。

3 ダイヤルを回して周波数(TVの場合はチャンネル)を選択します。

5-5-5 メモリーモードでの運用

1 VFOモードから MW/VFO/M キーを2回押すと、ディスプレイにバンクとメモリーチャンネルが表示されメモリーモードになります。

2 BANK/BAND キーでバンクを選択します。

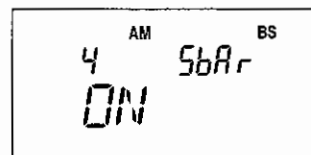
3 ダイヤルを回してチャンネルを選択します。
登録されていないバンク、チャンネルは選択できません。

参考
・メモリーモードにデータが登録されていないときは、この操作をしてもメモリーモードになりません。
・BANK/BAND キーを押しながらダイヤルを回してもバンクを選択できます。

8-2-4 短波放送、バーアンテナの切り替え

短波放送を受信するとき、内蔵しているバーアンテナと外部アンテナを切り替えます。バーアンテナは短波帯を含む3MHz～30MHzまでの範囲をカバーします。

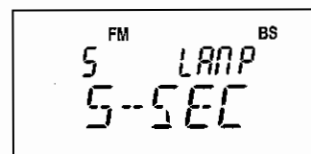
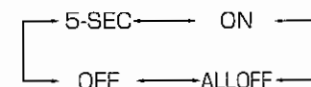
1 セットメニュー 4の「SbAr」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

AM BS
4 SbAr
ON

2 ダイヤルを回すと「ON」から「OFF」になり、外部アンテナが使えます。
感度が十分にとれないときは「短波チューニング機能(☞P48)」をお読みください。

8-2-5 LAMP動作の選択

ディスプレイの照明に使っているランプの点灯・消灯の動作を設定します。照明を多用すると電池を早く消費します。

1 セットメニュー 5の「LAMP」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

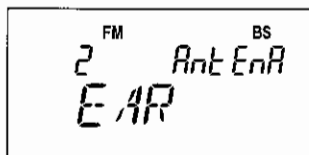
FM BS
5 LAMP
5--SEC

2 ダイヤルを回すと図のように切り替わります。

OFF	ランプを点灯させません。
5-SEC	本機を操作すると、5秒間ランプが点灯します。
ON	ランプを常に点灯させます。
ALLOFF	ランプとRXランプを点灯させません。

8-2-2 イヤホンアンテナ／外部アンテナの切り替え

イヤホンアンテナと外部アンテナを切り替えます。イヤホンアンテナを選択すると、イヤホンコードがアンテナの役割を果たし、外部アンテナを外しても信号を受信することができます。

1 セットメニュー２の「Ant EnA」を選択します。

2 ダイヤルを回すと「SMA」から「EAR」になり、イヤホンをアンテナとして利用できます。
ディスプレイに右のように表示されます。

FM BS
2 Ant EnA
EAR

参考

・イヤホンアンテナは、コードの状態によって受信される信号が不安定になることがあります。
・イヤホンアンテナはカード型トランジスタラジオのイヤホンアンテナと同じで、特に同調を取ったアンテナではありません。FM放送や近くから出ている強い電波でないと正しく受信できないことがあります。

8-2-3 AMラジオ、バーアンテナの切り替え

AMラジオを受信するとき、内蔵しているバーアンテナと外部アンテナを切り替えます。バーアンテナはAMラジオ帯を含む100kHz～3MHzまでの範囲をカバーします。

1 セットメニュー３の「AbAr」を選択します。
ディスプレイに右のように表示されます。

2 ダイヤルを回すと「ON」から「OFF」になり、外部アンテナが使えます。
初期設定では内蔵バーアンテナを使っています。外部アンテナはSMAアンテナコネクターに接続してください。

5-6 メモリーモード

メモリーモードとは、あらかじめよく使う周波数などを登録しておき、受信したい周波数を呼び出して使うモードです。
周波数を使いやすいようにジャンルわけして登録する場所を「バンク」と呼び、登録された周波数を「チャンネル」と呼びます。本機には別冊の周波数データリストのように、人気のあるチャンネルをメモリーデータに書き込んでいますが、それを編集することもできます。

5-6-1 メモリーの種類と使いかた

DJ-X8には以下の5種類のメモリーバンクがあります。

通常メモリー用バンク	メモリーモードで呼び出す通常のチャンネルです。合計1000chの周波数を登録できます。よく使う周波数を登録しておくと、簡単に呼び出すことができます。
プログラムスキャン用バンク	決められた周波数範囲の中で信号を探すプログラムスキャン機能に使用します。50組の周波数範囲（上限と下限）を登録できます。
サーチパスメモリー用バンク	スキャン時に停止してほしくない周波数を登録しておくと、VFOスキャン時とプログラムスキャン時にその周波数をパスします。100chの周波数を登録できます。常に出ているノイズ信号などを登録すると便利です。
プライオリティ用バンク	プライオリティ機能（優先受信）に使用します。100chの周波数を登録できます。
盗聴器発見機能用バンク	盗聴器でよく使われている周波数を登録してあります。メモリーの登録や消去はできません。メモリースキップのみ変更できます。

注意

・サーチパスメモリー用バンクは、同じ周波数を重複して登録することはできません。登録しようとするとエラー音が鳴ります。
・工場出荷時にメモリーに書き込まれているデータは弊社で独自に編集しておりますが、周波数の割当てや受信モードなどは変更になることがあります。弊社でも随時データの見直しを行っておりますが、データの信頼性は保証していません。メモリーデータのメンテナンスは、必要に応じて市販の周波数帳などを参考にお客様によって行ってください。

5-6-2 メモリーチャンネルの登録

1 **VFOモードで登録したい周波数に合わせます。**

2 **[FUNC]キーを押してディスプレイ左上に F を点灯させます。**

3 **キーでバンクを選びます。**

バンクとメモリーの関係は次のとおりです。

0～9	通常メモリー用バンク (メモリーデータ変更などの理由で、初期設定の0～9は変更になる場合があります。)
PS	プログラムスキャン用バンク
PA	サーチパスメモリー用バンク
Pr	プライオリティ用バンク
bG	盗聴器発見機能用バンク(編集不可)

用途に合わせて登録するバンクを選びます。

4 **ダイヤルを回してチャンネルを選びます。**

バンクの種類によって登録できるチャンネルは次のとおりです。

0～9	000～099 (バンクの仕切り方によって登録できるチャンネル数は異なります。)
PS	0A～49b
PA	000～099
Pr	000～099

点滅しているチャンネルは未登録のチャンネルです。
点灯しているチャンネルは登録されたチャンネルです。

5 **キーを押すとメモリーに周波数が登録されます。**

参考

- 初期設定ではデータの登録されたチャンネルへの上書きはできません。
- メモリーの削除や編集を行うときは、「ライトプロテクト(メモリー保護)機能(☞P65)」の設定をOFFにしてから行ってください。

8. セットモード

セットモードでは、本機の機能や初期設定を好みに合わせて変更することができます。

8-1 セットモードの設定方法

1 **[FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。**

2 **ダイヤルを押すとセットモードになります。**

3 **ダイヤルを押すごとに設定項目(セットメニュー)が変わります。**

- [MONI]キーを押すと逆の順で項目が変わります。
- テンキーでメニュー番号を入力しても項目が選択できます。メニュー番号の一覧は(☞P67)を参照してください。

4 **ダイヤルを回して設定内容を変更します。**

5 **セットモードを終わるときは[FUNC]キーを押します。**

変更した設定が保存されます。

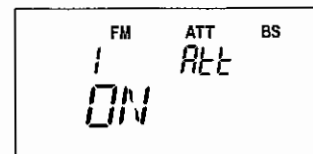
8-2 セットモードで設定できる項目

本機で設定できる項目は次のとおりです。

8-2-1 アッテネーター(ATT)機能

受信している信号が他のチャンネルから強力な信号の影響を受けているような場合に使用します。ONに設定すると目的の信号の強さは弱くなりますが、不要な電波を聞こえにくくするため、目的の信号をクリアに聞くことができる場合があります。減衰量は約20dBです。

1 **セットメニュー 1の「Att」を選択します。**

2 **ダイヤルを回し「ON」にするとディスプレイ上側に「ATT」が点灯します。**

参考

- SMAアンテナコネクターからつなぐアンテナ(付属または外付けアンテナ)を使用しているときのみ有効になります。通常は「OFF」でお使いください。

7-10-2 使いかた

1 を押している間シフトされた周波数を受信します。

・キーを押している間はスキャンを行えません。

シフト機能を解除するときは、[FUNC]キーを押してディスプレイにFを点灯させ、「NO SFT」が表示されるまでキーを押して、再度[FUNC]キーを押してください。

例：145.000MHzの周波数をバンク01番の002チャンネルに登録する場合。
① VFOモードで周波数を145.000に合わせます。
②「FUNC」キーを押します。
③ キーを押してバンク番号を「01」に合わせます。
④ ダイヤルを回してメモリーチャンネルを「002」に合わせます。
⑤ キーを押すと、登録できます。

●メモリー登録例の図

工場出荷時のメモリーデータは、付属の周波数データリストをご覧ください。

・プログラムスキャンチャンネル用バンクは○○Aと○○bの2つの周波数を登録して使います。
例)0Aに145.020MHzを登録、0bに146.100MHzを登録したとき。
プログラムスキャンを行ったときは、0Aの145.020MHzと0bの146.100MHzの範囲内でスキャンを行います。

・メモリーの追加増設はできません。
・登録したメモリーチャンネルは、周波数の代わりにアルファベット、記号、数字を表示することができます。詳細は「メモリーネーム機能(☞P46)」をお読みください。
・メモリーチャンネルの呼び出しはダイヤルの操作とテンキー入力のどちらでも可能です。

5-6-3 メモリーチャンネルの消去

1 「ライトプロテクト（メモリー保護）機能（☞P65）」にてプロテクトの設定をOFFにしてください。
2 [V/P/M] キーを押して、メモリーモードにします。
3 消去したいメモリーチャンネルを選びます。
4 [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。
5 F が点灯中に [V/P/M] キーを押すとメモリーされた周波数が消去されます。

注意

- 一度消去したデータの復元はできません。間違って必要なデータを消去しないようご注意ください。
- 大切なデータを誤って消去しないよう、データの消去を行った後は、「ライトプロテクト（メモリー保護）機能（☞P65）」の設定をONに戻してください。戻し忘れると「リセット機能（☞P75）」操作を行ったときメモリーデータがすべて消去されてしまいます。

●メモリーに登録が可能な項目

メモリーチャンネルには、下記の内容を記憶することができます。

- 周波数
- シフト周波数
- シフト方向
- トーン周波数
- 受信モード（電波型式）
- 空線信号キャンセラー／トーンスケルチ／逆トーンスケルチ設定
- メモリーネーム
- スキップ設定

参考

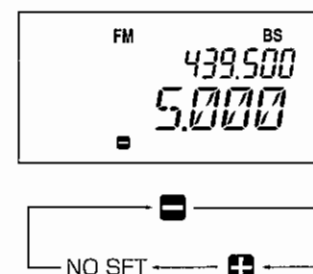
弊社ウェブサイト（http://www.alinco.co.jp/）より無償でダウンロードできるソフトウェアと別売りのPC接続ケーブル（ERW-4C/ERW-7）を使用するとこれらのメモリーバンクを、1000ch以内の任意のチャンネル数×最高50バンクまで自由に区切ることができるようになります。

この操作を本機単体のボタン操作だけで行うことはできません。

7-10 周波数シフト機能

現在受信している周波数に対して、ワンタッチで受信周波数をずらす機能です。例えば、レピーター（中継機）を使って通信している場合などでは、送信周波数（アップリンク周波数）と受信周波数（ダウンリンク周波数）の2つを使って通信しています。この機能を使用するとワンタッチで両方の通信が交互に受信できます。

7-10-1 設定のしかた

1 [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。
2 [SHIFT 0] を押してシフトさせたい周波数の方向を合わせます。
キーを押すごとに表示が右のように切り替わります。

3 ダイヤルを回しシフトさせる周波数を設定します。
[BANK] キーを押しながらダイヤルを回すと1MHz単位で周波数変更できます。
4 [FUNC]キーを押して終了します。

参考

- 通常、レピーターを介した通信はダウンリンク周波数（中継機が受信した信号を再送信する側の周波数）に周波数を合わせると受信できます。
- この機能は、タクシー無線のシステムのような、基地局側とタクシー側で異なった周波数を使用している通信を受信するときに使用します。
- 基地局側の音声が聞こえなくなったときに、ワンタッチでタクシー側の周波数に切り替えて受信することができます。
但しこの場合、基地局側の電波は比較的強く受信しやすいですが、タクシー側の電波はあまり強くないために受信可能範囲にいないと音声は聞こえません。

7-8-2 グループに登録されているバンクの確認方法

グループに登録されているすべてのバンクを確認することができます。

1 [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させせます。

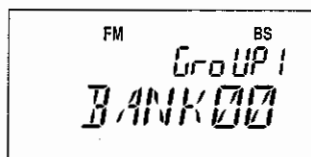
2 LINK 6 を押します。
ディスプレイに「GroUP1」と表示されます。最後の1がグループ番号を表します。

3 確認したいグループ番号(WILD 1 ～ R.DEL 9 あるいは NAME ・)を押します。

4 ダイヤルを回すとそのグループに登録されている全てのバンクを順番に表示していきます。

FM BS
GroUP1
BANK00

5 [FUNC]キーを押すと確認を終了します。

7

7-9 受信音音質切り替え機能

受信した音声の音質を切り替える機能です。好みに合わせて設定してください。受信モード(電波型式)によっても聞きやすさがかわることがあります。

1 [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させせます。

2 AUDIO 7 を押します。
ディスプレイに「AFtonE」と表示されます。

3 ダイヤルを回して音質をかえます。
「LOW」と「HIGH」が交互に切り替わります。

FM HI BS
AFtonE
HIGH

4 [FUNC]キーを押して終了します。

6. 便利な機能

6-1 スキャン機能

自動的に周波数を切り替えて、出ている信号を探し出す機能です。
スキャン機能には下記の種類があります。

VFOスキャン	VFOモードで、バンド内の全周波数をあらかじめ設定したチャンネルステップでスキャンします。
プリセットスキャン	プリセットモードのバンド内の周波数をスキャンします。
メモリースキャン	メモリーモードで、メモリーに登録した周波数だけをスキャンします。
プログラムスキャン	スキャンする範囲の上限と下限を設定してその範囲内をスキャンします。

●スキャン中の共通操作

- [FUNC]/ TONE SCAN / MW V/P/M / BANK BAND キーのいずれかを押すとスキャンが止まります。
- スキャン中にダイヤルを回すとスキャン方向を変更できます。
- スキャン中にモニター機能を動作させせると、その間はスキャンが一時停止します。モニター機能を解除するとスキャンを再開します。
- スキャンの開始方向は、最後にスキャンした方向によって決まります。(但し、プログラムスキャンの場合は、登録した○○Aから○○bへ向かってスキャンを開始します。)
- スキャンを再開する条件を設定することができます。設定方法は「スキャンタイプ切り替え(☞P58)をお読みください。

6

6-1-1 VFOスキャン

1 [V/P/M] キーを押してVFOモードにします。

2 [BAND] キーを押してスキャンを行うバンドにします。

3 [SCAN] キーを押したままダイヤルを回してディスプレイに「VFO」を表示させます。

4 [SCAN] キーをはなすとスキャンを開始します。
スキャン中は表示周波数のドットが点滅します。

6

6-1-2 プリセットスキャン

1 [V/P/M] キーを押してプリセットモードにします。

2 [BAND] キーを押してAMラジオ、FMラジオ、またはTV音声を選びます。

3 [SCAN] キーを押すとスキャンを開始します。
スキャン中は表示周波数のドットが点滅します。

7-8 グループ設定・確認機能

メモリースキャンのときに、スキャンを行うバンクを自由に組み合わせてグループ化することができます。
組み合わせるグループは9組まで設定でき、それぞれ [1] ～ [9] に対応しています。
あらかじめメモリーチャンネルが登録されていないと以下の操作はできません。

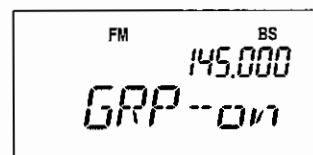
7-8-1 グループの設定方法

1 [V/P/M] キーを押してメモリーモードにします。

2 [BAND] キーを押してグループに登録したいバンクを選びます。

3 登録したいグループ番号([1] ～ [9])を長く押すと「GRP-on」が表示されビープ音がなります。
既にそのグループに登録されていた場合は、「GRP-of」と表示されてグループから外れます。

[・] (盗聴器発見機能専用グループ)を長く押すと、盗聴器発見機能の時に探知するバンクのグループに登録されます。

4 続けて登録したいバンクがあるときは上記 **2** と **3** の手順をくり返します。

・盗聴器発見機能用バンクをグループ1 ～ 9に登録することはできません。
・盗聴器発見機能専用グループから盗聴器発見機能用バンクを外すことはできません。

グループの設定例
バンク01とバンク03をグループ5に設定したいとき
① メモリーモードでバンク01を選択します。
② [5] を長く押します。
ビープ音がなり、ディスプレイに「GRP-on」と表示されるのを確認します。
「GRP-of」と表示された場合は、組み合わせから外れたので、再度 [5] を長く押して登録しなおしてください。
③ 続けてバンク03を選択します。
②と同様、 [5] を長く押し、「GRP-on」と表示されるのを確認します。

7

7-7 スキャンスピード切り替え機能

スキャンスピードを変更できます。
強い電波のみを受信したいときや、素早くスキャンをしたいときはスピードを速く、弱い電波を受信したいときはスピードを遅くします。

1 [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

2 SSPD 5 を押します。

数字が表示されダイヤルを回すと5段階でスピードを調整できます。

FM BS
v-SPd
3

スキャンスピードは

「1」遅い ←→ 「5」速い

の順で設定できます。

「v-SPd」と表示されているときに変更できるスキャンモードは次のとおりです。

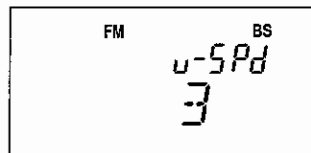
- VFOスキャン
- プリセットスキャン（AMラジオ・FMラジオ）
- プログラムスキャン

もう一度 SSPD 5 を押すと「M-SPd」と表示されます。
変更できるスキャンモードは次のとおりです。

- メモリースキャン
- プリセットスキャン（TV）

3 [FUNC]キーを押して終了します。

参考

- スキャンスピードを速くしすぎると、信号があってもスキャンが止まらないことがあります。

6-1-3 メモリースキャン

メモリーモード時に、特定のバンクまたは、すべてのバンクをスキャンします。メモリースキャンには次の3種類があります。

単バンクスキャン	選んだ1つのバンクのみをスキャンします。
グループスキャン	前もって組み合わせしたバンクのみをスキャンします。
全バンクスキャン	バンク0～9の全バンクがスキャンの対象になります。

参考

- グループ設定はテンキー装着時しか行えません。
- バンク0～バンク9以外のバンクはスキャンできません。
- オプションのソフトウェアの操作でバンクの拡張を行うと、バンク0～49までの間で全バンクスキャンが可能になります。

1 MW V/P/M キーを押してメモリーモードにします。

2 TONE SCAN キーを押したままダイヤルを回して、スキャンの種類を選びます。

メモリースキャンの種類は次のとおりです。

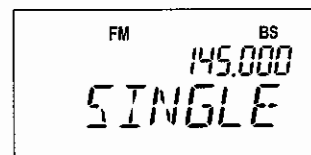
FM BS
145.000
SINGLE

- SINGLE・・・・・・・単バンクスキャン
- GROUP・・・・・・・グループスキャン
- ALL・・・・・・・・・・・全バンクスキャン

単バンクスキャンを選んだときは、メモリーモードで表示されている現在のバンクがスキャンの対象になります。

3 TONE SCAN キーをはなすとスキャンを開始します。

スキャン中は表示周波数のドットが点滅します。

6

6-1-4 プログラムスキャン

スキャンする範囲の上限と下限を設定してその範囲内をスキャンします。設定した上限の周波数と下限の周波数をプログラムチャンネルと呼びます。本機は50組のプログラムチャンネルを登録できます。「メモリーチャンネルの登録（☞P30）」をお読みください。あらかじめプログラムスキャン用バンクにデータを登録しておかないと、以下の操作はできません。

1 MW V/P/M キーを押してVFOモードにします。

2 TONE SCAN キーを押したままダイヤルを回してディスプレイに「PRGRM」を表示させ、スキャンを開始したいプログラムチャンネルを選びます。

FM BS
0A 145.000
PRGRM

3 TONE SCAN キーをはなすとスキャンを開始します。
スキャン中は表示周波数のドットが点滅します。

6

6-2 メモリースキップ機能

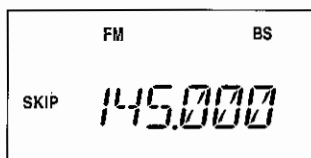
メモリースキップ機能とは、メモリースキャンのときに、設定したメモリーチャンネルをスキップさせる機能です。放送や空線信号の出ているチャンネルは必ずそこでスキャンが止まるので、そのようなチャンネルに設定しておくと効率の良いスキャンが行えます。

1 MW V/P/M キーを押してメモリーモードにします。

2 スキップさせたいメモリーチャンネルを選びます。

3 [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

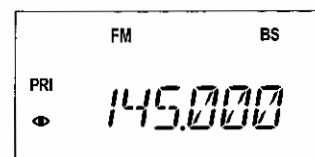
4 [MONI]キーを押します。
ディスプレイ左に「SKIP」が表示され、メモリースキップが設定されます。
メモリースキップを解除するには対象のチャンネルを選んで上記の 3 と 4 の操作を行ってください。
「SKIP」の表示が消え、メモリースキップが解除されます。

FM BS
SKIP 145.000

7-6 プライオリティ機能

2つのチャンネルを交互に受信し、待ち受け受信の効率をよくする機能です。メインチャンネルを5秒（※1）受信するごとに、プライオリティチャンネルを0.5秒受信し、信号の有無をチェックします。
よく聞くチャンネルをメインチャンネルに、気になるチャンネルをプライオリティにして使うと便利です。

1 メモリーモードでプライオリティチャンネルの登録を済ませておきます。（☞P58）

2 メインチャンネルで[FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

3 PRI 4 を押します。
ディスプレイ左に「PRI」と表示されます。
プライオリティチャンネルを受信するときは ◉ マークが表示されます。
プライオリティチャンネルを受信したときはビープ音がなります。その信号がなくなるまで受信し続けます。（※2）

4 プライオリティ機能を終了するときは、[FUNC]／ TONE SCAN ／ MW V/P/M ／ BANK BAND のいずれかを押します。

参考

・プライオリティチャンネルにメモリーが登録されていないときは、プライオリティ機能は動作しません。
・プライオリティ機能が動作しているときは、スキャンできません。
・プライオリティ用バンクに登録したメモリーのどのチャンネルを使うかはセットモードの「プライオリティチャンネルの選択（☞P58）」で設定できます。
・5秒（※1）に一度、プライオリティチャンネルを受信するため、この間隔で「プツプツ」とメインチャンネルの音声が途切れて聞こえます。特に放送など、常に電波が出ている信号では起こりやすくなりますが、故障ではありません。

※1 プライオリティチャンネル側を受信しにいく間隔はセットモードの「プライオリティ待ち受け時間設定（☞P59）」で変更できます。
※2 プライオリティチャンネル側で受信したときの停止時間はセットモードの「プライオリティ停止時間設定（☞P59）」で変更できます。

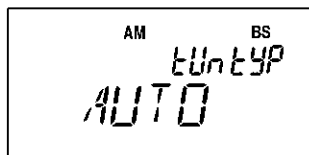
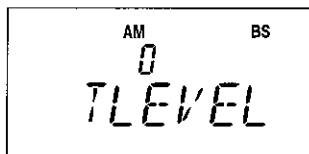
7

7-5 短波チューニング機能

短波用のバーアンテナで受信感度を手動で調整するための機能です。
短波放送を受信して音声が聞き取りにくいときに使います。
初期設定は「AUTO」です。通常は設定を変更する必要はありませんが、自動で受信しにくいときに調整してください。

1 [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させせます。

2 TUNE 3 を押します。
ディスプレイに「tUntyp」と表示されます。

AM BS
tUntYP
AUTO

3 再度 TUNE 3 を押します。
ディスプレイに「TLEVEL」と表示され、上に数字があらわれます。

4 ダイヤルを回して、音声が聞き取りやすい状態に調整します。

5 [FUNC]キーを押して終了します。

注意
・短波帯は、時間や季節、周波数によって電波が飛んでいく距離が大きく変化します。また、本来は大きなアンテナを必要とする周波数帯なので、本機のようなレシーバーに付属する小型アンテナでは強い電波しか受信することができません。

6-3 キーロック機能

使用時や携帯時に誤ってキーやダイヤルが操作されることを防ぐ機能です。
手軽にロックするクイック・ロックと、解除しにくいノーマル・ロックの2つの方法があります。

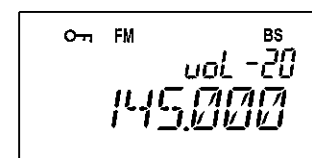
6-3-1 キーロックの方法

●クイック・ロック
[FUNC]キーを長く押して、キーロックのON/OFFを切り替えます。
キーロック時は、ディスプレイに O┳ マークが点灯します。

●ノーマル・ロック
BANK/BAND キー押しながらダイヤルを3回押して、キーロックのON/OFFを切り替えます。
キーロック時は、ディスプレイに K マークが点灯します。

・キーロックの解除はキーロックをかけたときと同じ方法を繰り返してください。同じ方法でないと解除できません。

6-3-2 キーロック時にできる操作

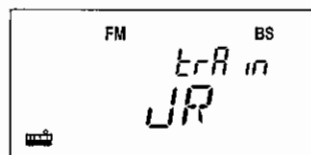
音量調整：ダイヤルを回すと音量調整ができます。

スケルチの調整：[MONI]キーを押しながらダイヤルを回すとスケルチの調整ができます。
盗聴器発見機能：「キーロック時の盗聴器発見機能の有効／無効設定(☞P62)」が有効になっているときはキーロックがかかっていても使えます。

6-4 空線信号キャンセラー機能

鉄道無線やMCA無線などで交信時以外のときに聞こえる空線信号音(「ピー」や「ギャラギャラ」音)を判別してスケルチをかける機能です。

1 **空線信号の出ているチャンネルに合わせます。**

2 **[FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。**

3 **TONE SCAN キーを押しディスプレイ左下に アイコンとJR、または300～3000の数字が表示されるメニューを選びます。**

4 **ダイヤルを回してスケルチが閉じるように調整します。**
[FUNC]キーを押して設定を終了します。

5 **空線信号キャンセラー機能を解除するには[FUNC]キーを押した後に TONE SCAN キーを数回押し、ディスプレイに「OFF」と表示されるメニューを選んで[FUNC]キーを押します。**
アイコンが消えます。

6

6 **[FUNC]キーを押します。**
メモリーネームが決定します。

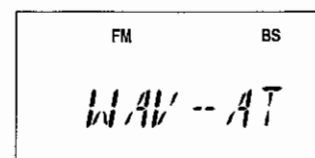
参考

メモリーネームを消去するには?
・上記の 1 から 4 まで操作し、5 で V/M キーを押してから[FUNC]キーを押すと、メモリーネームを消去できます。

7-4 受信モード切り替え機能

受信したい信号の電波型式を手動で選ぶことができます。

1 **[FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。**

2 **MODE 2 を押します。**
ディスプレイに「WAV-AT」と表示されます。

3 **ダイヤルを回すか MODE 2 キーを押して受信モードを選択します。**

受信モードの説明

AT	自動的にその周波数に主に割り当てられている受信モードを選択します。
AM	振幅変調:主にAMラジオ、短波放送や航空無線などに使用されています。
FM	周波数変調:アマチュア無線や特定小電力無線などの通信に使用されています。
WFM	周波数変調:FMラジオや放送中継の電波など、音質の良さが重要なときに使われるFM方式です。通信用のFMと区別するためワイドFMと呼ばれています。

4 **[FUNC]キーを押して終了します。**

7

7-3 メモリーネーム機能

メモリーモードで登録したメモリーチャンネルにアルファベット、記号、数字を合わせて6文字まで名前を付けることができます。

●メモリーネームの登録

1 [MW V/P/M] キーを押してメモリーモードにします。

2 名前を付けたいメモリーチャンネルに合わせます。

3 [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

4 [NAME ·] を押します。
ディスプレイ右上に周波数が表示され、画面左にカーソルが点滅します。

5 以下のようにキーやダイヤルを操作して文字を選択します。

メモリーネーム機能内のキー操作

FUNC	メモリーネームが決定します。
ダイヤル	文字を選択します。
TONE SCAN	カーソルが右に進みます。
MW V/P/M	入力した文字をすべて消去します。
BANK BAND	カーソルが左に進みます。

・入力できる文字を下記の表に示します。

0	0	A	A	N	N	a	a	n	n	!	!	.	.	_	_
1	1	B	B	O	O	b	b	o	o	"	"	/	/	`	`
2	2	C	C	P	P	c	c	p	p	#	#	:	:	{	{
3	3	D	D	Q	Q	d	d	q	q	$	$	;	;	|	|
4	4	E	E	R	R	e	e	r	r	%	%	<	<	}	}
5	5	F	F	S	S	f	f	s	s	&	&	=	=	^	^
6	6	G	G	T	T	g	g	t	t	'	'	>	>		スペース
7	7	H	H	U	U	h	h	u	u	(	(	?	?		
8	8	I	I	V	V	i	i	v	v	)	)	@	@		
9	9	J	J	W	W	j	j	w	w	*	*	[	[		
		K	K	X	X	k	k	x	x	+	+	¥	¥		
		L	L	Y	Y	l	l	y	y	,	,	]	]		
		M	M	Z	Z	m	m	z	z	—	—	´	´		

7

6-5 トーンスケルチ／逆トーンスケルチ機能

耳に聞こえにくい低周波信号(CTCSSトーン)を電波に乗せて、その信号の有無や周波数を通信機に判別させることで特定の通信の音声だけをスピーカーから聞こえるようにするシステムです。
トーンスケルチ機能は、受信したトーン周波数と本機で設定したトーン周波数が一致したときにスケルチを開く機能です。
あらかじめ聞きたい通信のトーン周波数と同じ設定にしておけば、そのトーン周波数を受信したときだけ、スケルチを開くようにできます。
逆トーンスケルチ機能は、受信したトーン周波数と本機で設定したトーン周波数が一致しないときにスケルチを開く機能です。
タクシー無線(450～453MHz帯)などで、通話がないときに常に発信されている無変調信号にトーンを合わせて設定すると、通話のあるときだけスケルチが開くようになります。

1 トーン、または逆トーンを使って通信しているチャンネルに合わせます。

2 [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

3 [TONE SCAN] キーを何度か押します。ディスプレイの T が点灯(トーンスケルチ)、あるいは点滅している状態(逆トーンスケルチ)を選びます。

4 ダイヤルを回してCTCSSトーン周波数を選び[FUNC]キーを押します。

FM BS
tonE
88.5
T

「CTCSSトーン周波数一覧(☞P80)」をご参照ください。
トーンスケルチのときはトーンの一致する信号を受信すると SQ が点灯しスケルチが開きます。
逆トーンスケルチのときはトーンの一致する信号を受信すると SQ が点灯しスケルチが閉じます。

5 トーンスケルチ／逆トーンスケルチ機能を解除するにはいずれの場合も[FUNC]キーを押した後に [TONE SCAN] キーを数回押し、ディスプレイに「OFF」と表示されるメニューを選んで[FUNC]キーを押します。

注意

・トーンスケルチを使う場合も、通常のスケルチレベルは適正に調整してください。通常のスケルチを開いたままにしていると、トーンスケルチ動作に時間がかかります。

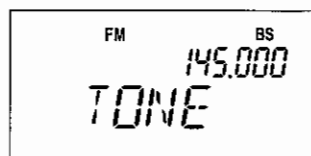
6

6-6 トーンスキャン機能

受信電波に含まれるCTCSSトーン周波数を自動的に判別する機能です。

1 VFOモードでトーンを調べたいチャンネルに合わせます。

2 [TONE/SCAN] キーを押したままダイヤルを回してディスプレイに「TONE」を表示させます。

FM BS
145.000
TONE

3 [TONE/SCAN] キーをはなします。

スキャンを開始し、ディスプレイにトーン周波数が順に表示されます。トーンが発見されるとビープ音がなってディスプレイに SQ とトーン周波数が表示され、スキャンを停止します。

4 トーン周波数が受信電波に含まれないときは、いつまでもスキャンし続けます。終了したい場合は、[FUNC]／[TONE/SCAN]／[MW/V/P/M]／[BANK/BAND] キーのいずれかを押すとVFOモードに戻ります。

6-7 盗聴器発見機能

盗聴器で使われていそうな周波数を自動的にスキャンして、盗聴器を探知する機能です。盗聴器があると判断すると、表示と警告音で知らせます。
本機には「SILENT」と「SOUND」の2モードあります。
また、ユーザーでメモリー登録したバンクを盗聴器発見機能用バンクと組み合わせて盗聴器の探知ができます。

参考

- 「SILENT」と「SOUND」モードの切り替えはセットモード内の「盗聴器発見モードの切り替え（☞P63）」をお読みください。
- SILENTモードでは盗聴器発見の探知感度を設定できます。セットモード内の「盗聴器発見機能の感度設定（☞P63）」をお読みください。
- 盗聴器発見機能では、盗聴器発見機能用バンクと組み合わせたバンク内のメモリーチャンネルを探知します。「グループ設定・確認機能（☞P51）」をお読みください。

注意

- これらの機能は簡易的なもので、セキュリティの安全を保障するものではありません。盗聴器を発見できなかったことに対する保障はご容赦ください。
- 弊社では、盗聴器発見や発見された盗聴器の処理などのサービスは一切行っておりません。

7-2-3 録音の音質を変える

録音の音質を変えることができます。「LONG」→「NORMAL」→「CLEAR」→「HIGH-Q」の順で音質がよくなりますが、録音できる時間が短くなります。

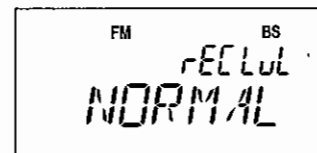
→ LONG → NORMAL → CLEAR → HIGH-Q →

1 [FUNC] キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

FM BS
rEC LvL
NORMAL

2 [BTR/8] を押します。

3 ダイヤルを回して録音音質を選びます。

4 [FUNC] キーを押して終了します。

参考

音質と録音できる時間の目安。

LONG ・・・・・・・約17分
NORMAL ・・・・約13分
CLEAR ・・・・・・約10分
HIGH-Q ・・・・・・約8分

注意

- 録音できる時間は10トラック分まで録音したときや録音音質によって変わります。

7-2-4 録音した音声を消去する

1 [FUNC] キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

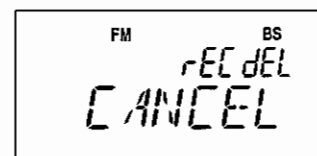
FM BS
rEC dEL
CANCEL

2 [R DEL/9] を押します。

ディスプレイに「CANCEL」と表示されます。

3 ダイヤルを回して「DELETE」に表示を合わせます。

4 [FUNC] キーを押します。

ビープ音が2回続けてなり、録音した音声はすべて消去されます。

注意

- トラックごとの消去はできません。

7-2 録音／再生機能

受信した音声を手軽に録音、再生することができます。音声は最長約17分で10トラック分まで録音できます。

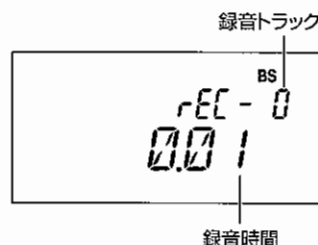
7-2-1 録音のしかた

1 音声を録音したい周波数に合わせます。

2 PLAY/•ENT キーを押します。

ディスプレイに録音時間が表示されます。

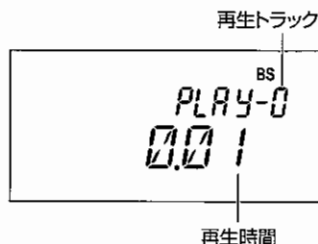
録音のトラックは「0」から「9」までです。録音できる時間が残っていてもトラック9まで録音した場合は、それ以上録音できません。

3 PLAY/•ENT キーを押して録音を止めます。

7-2-2 再生のしかた

1 [FUNC]キーを押してディスプレイに F を点灯させます。

2 PLAY/•ENT キーを押したままダイヤルを回して再生トラックを選びます。

PLAY/•ENT キーをはなすと再生モードに入りディスプレイに「PLAy」が表示されます。
再生中に SHIFT/0 ～ R.DEL/9 を押すと再生トラックを選べます。
再生が終わるとディスプレイに「END」と表示されます。

3 PLAY/•ENT キーを押すと、再生モードを終了します。

6-7-1 SILENTモードでの探知

信号を受信するとその受信音をスピーカーから出し、盗聴器であれば起こる「ハウリング」という現象の有無によって精度の高い探知をするモードです。

●SILENTモードでの注意点

- このモードで動作させるときは、イヤホンを使用しないでください。
- ノイズなどの影響で誤動作し、スキャンが止まることがあります。盗聴器であれば、ハウリング音に混じって必ず周囲からの音が聞こえます。

1 ダイヤルを長く押します。

ディスプレイに 👁 マークが点滅し、自動的にスキャンを開始します。スキャン中のビープ音はありません。盗聴器があると判断すると警告音をならし、ディスプレイに右のように表示します。

周囲の音がスピーカーから聞こえてくれば盗聴器が仕掛けられている可能性があります。(音が大きくなるので注意してください。)

2 ダイヤルを回して音量を調整できるようにしておきます。

本機でハウリングの音(キーン音)が発生するように音量を調整し、盗聴器を探します。このときスピーカーの開口部はふさがないでください。

3 本機をゆっくり動かします。

盗聴器に近づくとハウリングの音が発生しやすくなり、盗聴器から離れるとハウリングの音が発生しにくくなります。

4 再度、ダイヤルを長く押します。

この機能が解除されます。

6-7-2 SOUNDモードでの探知

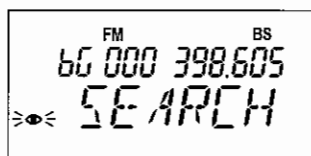
●SOUNDモードの特徴

DJ-X8から音を出し、盗聴器にその音を発信させ、その信号をDJ-X8が受信するまでの時間差を測り、盗聴器の探知と盗聴器までのおおまかな距離を判定します。盗聴器があると判断すると盗聴器までの距離を音と表示によって教えてくれるのが特徴です。探知中はピーと大きな音をたてます。

●SOUNDモードでの注意点

- このモードで動作させるときは、イヤホンを使用しないでください。
- 盗聴器発見機能の有効距離は約1 ～ 5mです。
- 盗聴器発見機能は周囲の音や盗聴器の電波の強さ、マイク感度などに大きく影響されます。周囲環境により(音が反響しやすいところなど)誤動作または使用できない場合があります。
- 盗聴器探知中、本機を急に動かすと、ドップラー効果により誤動作します。
- スピーカーの向きと盗聴器の位置関係で正常に動作しないことがあります。
- 2300Hzの変調がある電波を受信しているときは、正常に動作しません。

1 ダイヤルを長く押します。

ディスプレイに 👁 マークが点滅し、自動的にスキャンを開始します。スキャン中は連続したピー音が出ます。
指定した範囲のスキャンを行って一定時間が経過しても見つからないときは「STOP」と表示して、探知を終了します。

2 DJ-X8をゆっくり動かしながら盗聴器がありそうな場所を探します。

盗聴器があると判断すると「ピッ・ピッ・ピッ」と音が出ます。
本機が盗聴器に近づくと矢印が長くのびて音の間隔が短くなり、盗聴器から離れていくと矢印が短く縮んで、音の間隔が長くなります。

3 再度、ダイヤルを長く押します。

この機能が解除されます。

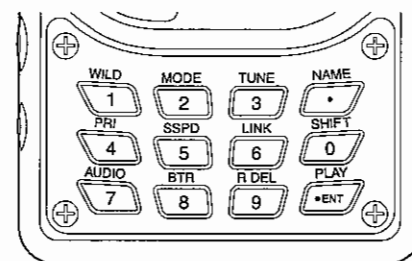
- 盗聴器によく使用されている周波数の他に探知したい周波数を盗聴器発見用バンクと組み合わ(☞P51)せて盗聴器の探知を行ったときはスキャン時間が長くなる場合があります。

7. テンキー装着時の便利な機能・操作

テンキーを付けると下記の操作ができるようになります。

1. 受信したい周波数をテンキーで直接入力できます。
2. 音量をテンキーで調節できます。
3. メモリーチャンネルやセットモードの項目を選択できます。
4. [FUNC] キーと組み合わせることにより、機能が拡張されます。

7-1 テンキーの基本操作

テンキーの配列は図のとおりになっています。

受信したい周波数を直接入力するとき

例1： 450.250MHzと入力するとき
[4] [5] [0] [・] [2] [5] と入力して [•ENT] キー

例2： 0.702MHz(702kHz)と入力するとき
[・] [7] [0] [2] と入力して [•ENT] キー

と入力します。
周波数を間違えて入力したときはダイヤルを回すと初めから入力をやり直すことができます。